

非認知能力に焦点をあてた学習評価 の知識・方法の獲得研修

一般社団法人 全国専門学校教育研究会

研修全体の目的

- ① 専門学校教育において非認知能力に着目する意義を学ぶ
- ② 業界で求められる非認知能力を抽出し、教育活動に落とし込み、評価する方法を学ぶ
- ③ 学生がもつ非認知能力の伸び・成長を把握し、評価するための方法を学ぶ

研修の構成

時限	タイトル
1時間目	非認知能力の観点で専門学校教育の『強み』を明確にしていく
2時間目	非認知能力を抽出・分類・構造化する
3時間目	教育活動のなかで非認知能力を育む
4時間目	学生個人の成長をどう評価するか

研修の全体像と研修の構成要素(各時間での学習内容)の関係

1時間目：「非認知能力の観点で専門学校教育の『強み』を明確にしていく」

→専門学校教育の強みとしての非認知能力に着目する志向性の獲得

専門学校で養成・獲得する能力

非認知能力

認知能力

養成を通じて
意図的に育まれる能力

養成を通じて
無意図的に育まれる能力

人材像の設定・養成する能力の設定

教育課程の編成・イベントや行事の企画

各授業での目標設定・学習評価

学生への個人面談 日常的な指導・声掛けなど

2時間目：「非認知能力を抽出・分類・構造化する」

3時間目：「教育活動のなかで非認知能力を育む」

→人材像を非認知能力の観点で設定し、
教育課程に落とし込んで学習評価をする方法の獲得

4時間目：「学生個人の成長をどう評価するか」

→学生が無意図的に獲得する非認知能力を評価する方法の獲得

1時間目

**非認知能力の観点で専門学校教育の
『強み』を明確にしていく**

1. はじめに

1. はじめに

研修プログラム開発事業について

○文部科学省委託事業

令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」

○事業概要

「専修学校教員の質保証・向上を進めるために必要な教職員
研修プログラム開発事業」

○事業主体

全国専門学校教育研究会

○研修テーマ

学科で育成する「非認知能力」の共有と評価

1. はじめに

研修全体の目的・構成と研修範囲

○全体の目的

- 学科で育成している諸能力について「非認知能力」の観点から整理し、言語化・共有できるようになる。
- 学科で育成している「非認知能力」を評価する意義を理解するとともに、その方法を獲得する。

○全体の構成

- 1時間目 非認知能力の観点で専門学校教育の『強み』を明確化
していく ―意義の理解―
- 2時間目 非認知能力を抽出・分類・構造化する ―言語化―
- 3時間目 教育活動を通じて非認知能力を育む
- 4時間目 学生個人の成長をどう評価するか

1. はじめに

研修の構成

<1時間目(60分)>

非認知能力の観点で専門学校教育の
『強み』を明確化していく

<休憩>

<2時間目(110分)>

非認知能力を抽出・分類・構造化する

2. 導入

2. 1時間目の導入

1時間目の目的・目標

○目的

- 専門学校教育の質をより高めていくために「非認知能力」を知ること、学ぶことが重要であることを理解していただく（納得し、興味関心が高まる）。

○目標

- 「非認知能力」に関する基本的な知識を得る。
- 専門学校教育の「強み」を非認知能力の観点から明確にしていくことやそのメリットを理解する。

2. 1時間目の導入

はじめに……

「専門学校教育の『強み』とは？」

この問いに、あなたならどう答えますか。

3分間で、まずは個人で考えてみてください。

※「強み」が浮かびにくい場合は「特徴」を考えてください。

教育機関としての専門学校の様々な「強み」

教育制度の「強み」

自由なカリキュラム・柔軟な学科・コース設定

本日の研修で
焦点を当てる「強み」

教育内容・教育方法の「強み」

職業を目的とした教育・学習

職業を通じた(手段とした)教育・学習

多様な対象への対応という「強み」

リカレント教育・成人の学び直し 留学生教育
青年期教育

13

多様な社会的需要への対応という「強み」

若者文化・消費文化へのアプローチ
新しい職業ニーズへの対応

一般的にイメージされやすい職業教育の強み

1. それぞれの職業に必要な専門的な知識・技能



美容師

カット、シャンプー
セット、カラーリング*



調理師

調理技法、調理知識
衛生知識等

2. それぞれの職業に必要な資格取得等



美容師

美容師資格の取得



調理師

調理師資格の取得

あまりイメージされないが重要な職業教育の強み

1. 職業人として必要な価値観の形成

2. 学習意欲の回復

3. 非認知能力の育成

2. 1時間目の導入

あまりイメージされないが重要な職業教育の強み

1. 職業人として必要な価値観の形成

2. 学習意欲の回復

3. 非認知能力の育成

2. 1時間目の導入

聞き取り調査から —様々な価値観の形成— ファッションデザイナー科卒業生

クリエイターとしての価値観

洋服のデザインや素材、パターンの多様な在り方や進化を把握し判断する。

デザイナーとしての自己認識

自分は何を創り出したいのか、誰のためのどのような服を生み出したいのか。自己認識。

ビジネス的価値観

どのような商品にニーズがあるのか、どのようなマーケットをねらうのか。



労働者・生活者としての価値観

仕事への向きあい方、金銭感覚、家族形成、自身の生活やキャリアプランなど。

目指す業界や職場で必要とされる共通した価値観、異なる価値観。それらをふまえて、自分なりの価値観を形成していくことで、職業人としてやっていくことができる。

2. 1時間目の導入

あまりイメージされないが重要な職業教育の強み

1. 職業人として必要な価値観の形成

2. 学習意欲の回復

3. 非認知能力の育成

2. 1時間目の導入

専門学校生の学習意欲の向上

ベネッセ教育総合研究所

「専門学校生の学習と生活に関する実態調査」(2017年)

関心・興味： 高校時代と比べて学びに対する態度が積極的に

【高校時代を振り返って】

「授業に関心・興味がもてなかった」

46.9%

【現在】

「授業に関心・興味がもてない」

33.1%

【-13.8p】

→

※「とても+まああてはまる」の合計%

【参考】

調査の条件が異なるので単純には比較できないが、大学生を対象にした調査では、「（高校時代）授業に関心・興味を持てなかった」（とても+まああてはまる）は 46.8%、「（現在）授業に関心・興味を持てない」（よく+たまにある）は 68.7%であった。

*ベネッセ教育総合研究所「第3回大学生の学習・生活実態調査」2016

2. 1時間目の導入

聞き取り調査から—学習意欲の回復について



やっと自分のやりたいことを学べている
ので学ぶことが楽しい!

専門学校で初めて、
生きている実感があるんです!

高校までは評価されてこなかった
自分の性格も、「個性」として評価
してくれて自信に!

自分が親しんできた消費文化領域・職業世界で学ぶことの喜び
多様な個性を認める学習空間

2. 1時間目の導入

「強み」が理解されていない？

職業教育としての「強み」を多面的にもつ専門学校であるが現実的には、まだまだ一面的な理解がされがち。

「専門学校って資格対策ばかりしているイメージがありますね。」
「専門的なスキルは高そうだけれど、応用が利かないのでは。」

学校教員や一般の人はほとんど、理解していない。

また、専門学校教員自身も正確に把握できていなかったり、人によってその捉え方に違いがあったりする。

→「強み」を言語化・共有し、教育全体に反映していく必要

2. 1時間目の導入

あまりイメージされないが重要な職業教育の強み

1. 職業人として必要な価値観形成

2. 学習意欲の回復

3. 非認知能力の育成

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしていく

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしていく

非認知能力という観点から見ていく

3節では、非認知能力の基本的な知識をおさえながら、そうした観点で専門学校教育や、そこで成長していく学生を見ていくことの意義や効果を見ていきましょう。

3節の内容

- ・非認知能力とは？
- ・非認知能力の観点から能力・成長の多面性を把握すること

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしてい

人の能力はそもそも多様

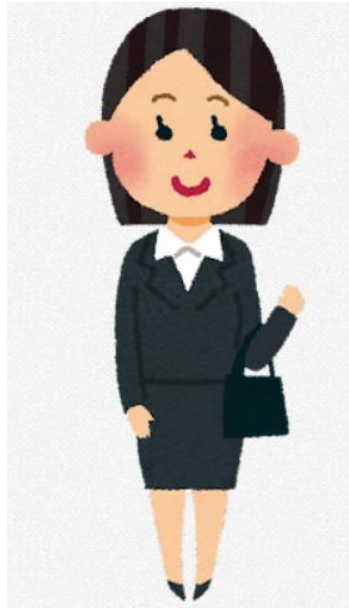
<体力>
<運動能力>



<表現力>
<プレゼン力>



<協調性><主体性>



<コミュニケーション力>



<計画性>
<自己管理能力>



<勤勉さ>
<学力>



3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしていく

非認知能力とは？

認知能力：基礎学力や基礎的な知識・技能、専門知識などの
測りやすい・数値化しやすい能力を認知能力

①基礎学力	②基礎的な知識・技能	③専門性・専門知識
-------	------------	-----------

非認知能力：なかなか言語化しにくい・測りにくい、現場で重要視
され、今後の社会変容の中で重視されていく能力

④問題解決力	⑤批判的思考力 ※1			
⑥協調性	⑦コミュニケーション力	⑧主体性	⑨自己管理能力	
⑩自己肯定感	⑪実行力	⑫統率力	⑬創造性	⑭探究心
⑮共感性	⑯道徳心	⑰倫理観	⑱規範意識	⑲公共性

※非認知能力の表現・分類は多様で、上記に示したものの以外もあります。
※認知能力と非認知能力は完全に切り分かれたものではなく、相互に関連しています。

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしてい

非認知能力への関心の高まり



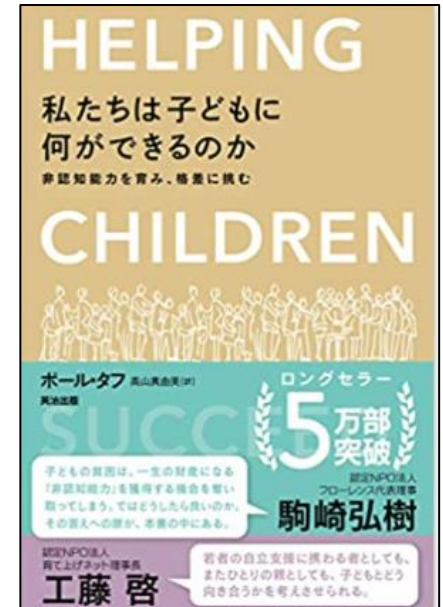
小塩真司編『非認知能力
概念・測定と教育の可能性』
北大路出版、2021年



中山芳一『学力テストでは測れ
ない 非認知能力が子どもを
伸ばす』東京書籍、2018年



ポーク重子『「非認知能力」の育
て方 心の強い幸せな子になる
0~10歳の家庭教育』小学館、
2018年



ポールタフ『HELPING
CHILDREN 私たちは子ども
に何ができるのか』英治出
版、2017年

- 2010年代から、教育業界において着目を集めている概念
- 急激な社会変容に対応するための「新しい能力」の必要性
 - BIG5(ビッグファイブ)など経済面・社会面・健康面での成功との関連
 - 教育や環境によって比較的変わりやすいものと変わりにくいもの(個性・パーソナリティ特性)

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしていく

青年期における非認知能力の成長

専門学校生などの青年期において、
非認知能力は自覚・獲得されていくものです。

青年期の特徴

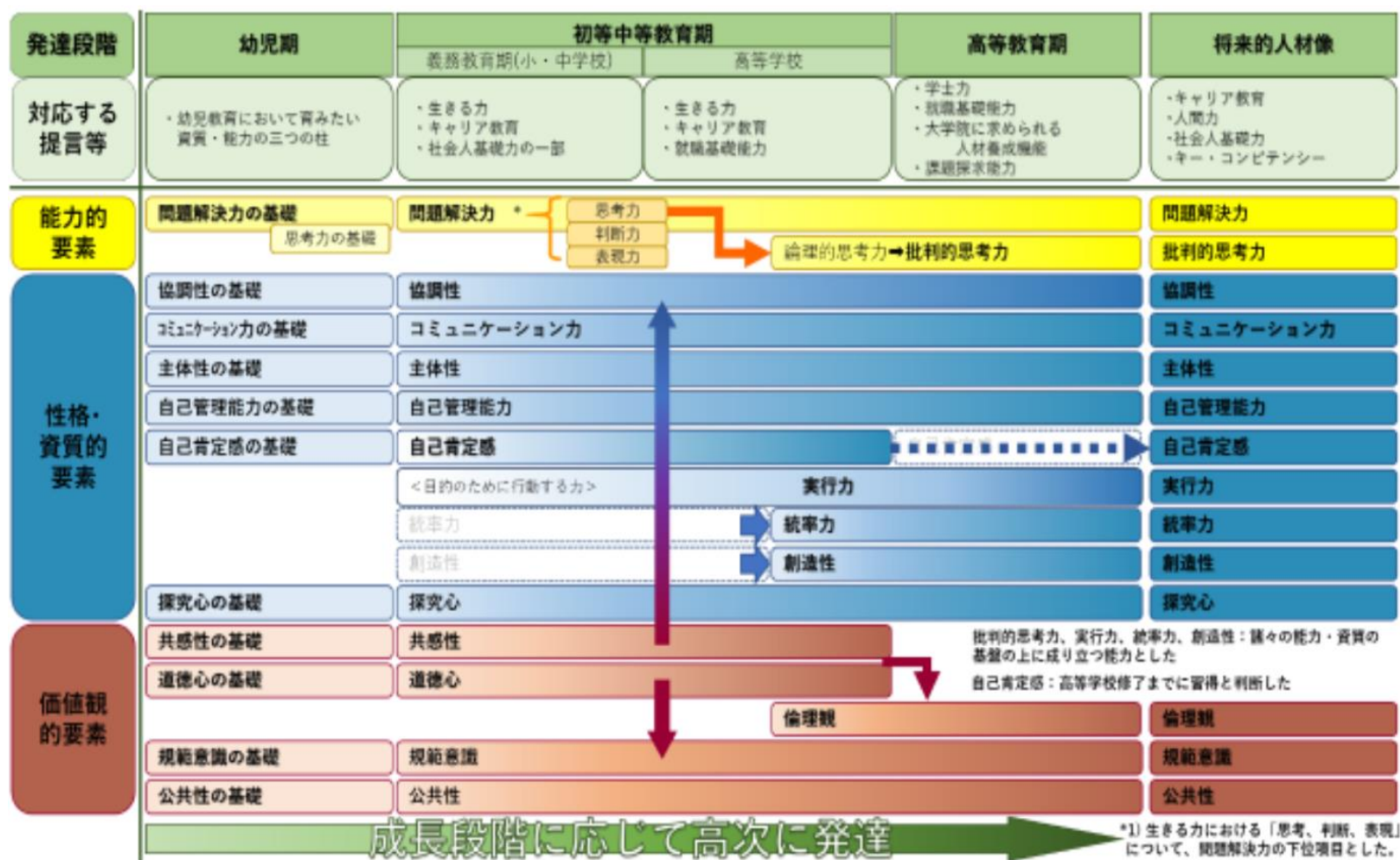
- 参加する社会の広がりと関与の深まり
例) 高校生から専門学校生へ～学校、業界、バイト、人間関係の広がり
- アイデンティティ形成の本格化
例) 「私は〇〇だ」「私は〇〇になりたい」の試行錯誤

青年期における非認知能力の自覚や獲得

- 多様な社会への本格的参加のなかで具体的・実践的な知識・能力や価値観などを獲得
- 自分が持つ能力、必要とされる能力の自覚化

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしてい

参考：各発達段階に応じて要求される非認知能力の要素



※日本生涯学習総合研究所『非認知能力』の概念に関する考察から図を引用

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしてい

非認知能力の観点を用いることでできること

非認知能力の観点を用いるメリット

専門学校教育が関係する多様な能力の言語化

これが、最大のメリット。
いくつかの点について見ていきましょう。

- a. 職業において必要な能力の多面性を明確化
- b. 専門学校生の成長における多面性の把握
- c. 多様な学生の特徴・個性の把握

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしていく

a. 職業において必要な能力の多面性を明確化

1. それぞれの職業に必要な専門的な知識・技能



美容師

カット、シャンプー
セット、カラーリング



ダンサー

ダンススキル、表現方法
音楽知識

2. 実践的に求められる非認知能力



美容師

コミュニケーション能力
主体性、共感性



ダンサー

主体性、自己管理能力、協調性
コミュニケーション能力

➤ 2のような見えにくい専門的な知識・技能を
発揮する上で重要な能力を明確化できる

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしていく

b. 専門学校生の成長における多面性の把握

次は、学生の成長を多面的にとらえていく、という観点です。
たとえば、次のような例、ありませんか？



<A君の事例>

基礎学力が低いため、座学系の成績は高くない。しかし、教室ではいつも、最前列に座り真面目に授業を受け積極的に質問もするように。彼の成長を評価してあげたいが…。

- 従来の学力や専門的知識・技能のみを評価する観点では、なかなか、A君の成長を評価することができない。
そこで、非認知能力の観点を導入すると…

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしていく

b. 専門学校生の成長における多面性の把握



実際の調理技術
調理の知識



聞く力 **素直さ 積極性**
コミュニケーション能力



サービス能力
気づく力



主体性・自主性
自己管理能力・自律性

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしていく

c. 多様な学生の特徴・個性の把握



Aさん

- 練習熱心で非常にカット技術が高い
- 自己管理能力が高く、忍耐力もある
- 観察力やコミュニケーション能力に課題あり



Bさん

- 同世代へのコミュニケーション能力が高い
- 新しいことへのチャレンジ精神と実行力がある
- 自己管理能力に課題あり



Cさん

- カット技術に課題あり
- 傾聴力、共感性が高くて真面目
- 異世代へのコミュニケーション能力が高い

3. 非認知能力の観点で専門学校教育の「強み」を明確にしていく

ワーク：質問と意見をぜひ！

いかがでしょうか？

- ・非認知能力とは？
- ・非認知能力の観点を用いることで、
専門学校教育が関連する能力の多面性が把握できる。

上記の点について3節で説明してきました。

「納得した！」や「まだ、わかりにくい」という点あると思います。

理解を深めるため、意見交流のために、ここまでの感想と質問をお願いします(3分)

4. 教育改善に非認知能力の 観点を活かしていく

4. 教育改善に非認知能力の観点を活かしていく

非認知能力の観点の活かし方

○直前の3節のポイント

非認知能力の観点を用いることで…

専門学校教育が関係する多様な能力の言語化が可能

○このあと説明する4・5節のポイント

言語化することのメリットとは？

4節：教育改善に活用できる

5節：社会的評価の向上につながる

教育改善への活用のポイント

非認知能力の観点で、専門学校に関わる多様な能力を言語化することを通して、教育改善として、以下が期待できます。

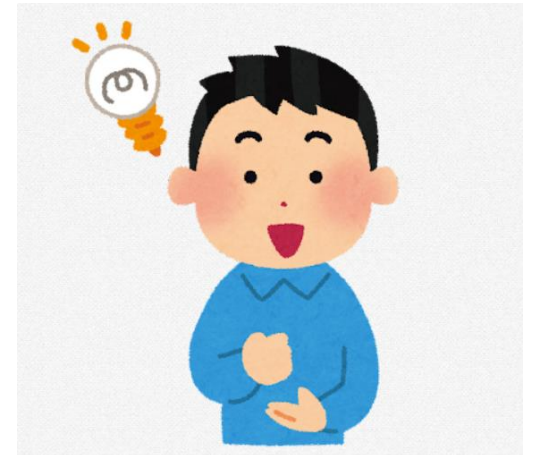
○人材像の設定・具体化の改善

2時間目に扱います

○教育課程編成の改善

○授業の目標設定の改善

○学習評価の改善



4. 教育改善に非認知能力の観点を活かしていく

教育改善の具体的な利点・方法を知っていく

教育改善を進めることのメリットとは？

観光系専門学校A先生

非認知能力を用いることで、学科として養成したい人材像が具体的になり、教員間でもズレがなくなりました！

情報系専門学校B先生

人材像が明確化するので、教育課程編成委員会でも、企業・業界側と、必要とする人材・能力について有益な議論ができます。

ゲーム・CG系専門学校C先生

授業での到達目標で、専門的スキル以外の能力を示すことができ、教員・学生ともに意識化できたと思います。

ダンス系専門学校D先生

「コミュニケーションが豊かになった」、「自己管理能力がついた」など学生の学びを多面的に評価することができるようになりました。

➤ 具体的な方法を身につけ、改善に活かしていく！

5. 社会的評価の向上に 非認知能力の観点を 活かしていく

社会的評価向上のポイント

非認知能力の観点で、専門学校に関わる多様な能力を言語化することを通して、社会的評価の向上として、以下が期待できます。

○自身の学校・学科の成果の可視化

- ・就職率や資格取得率以外の成果を可視化できる。
- ・学科の「強み」を企業や高校側にアピールできる。

○学べること・成長できることのイメージ

- ・高等教育機関への進路選択において、
今後、「自分がどう成長できるのか」が大事なポイント。
- ・自分の成長イメージがわかりやすくなる。

5. 社会的評価の向上に非認知能力の観点を活かしていく

社会的評価向上のための具体的な方法

非認知能力の観点でデータを活用すると…

＜K学園の事例＞

非認知能力の観点での意識調査を実施。

入学時点と卒業時点での調査比較、全国調査との比較を行うことで…。

- ・ 2年間の教育を通じての成長度をデータに基づき可視化
- ・ 全国比較でのK学園の成長度をデータに基づき可視化

「K学園▲▲学科では＜△△＞力の伸びが強み！」

「全国比較でK学園の＜●●＞力が高い！」などのアピールが可能に

⇒方法を知って、社会的評価を向上させていく！

ワーク：質問と意見をぜひ！

いかがでしょうか？

非認知能力の観点を用いることで、

- ・教育改善に活かすことができる
- ・社会的評価の向上につながる

上記の点について4・5節で説明してきました。

「納得した！」や「まだ、わかりにくい」という点あると思います。

理解を深め、意見交流のために、ここまでの感想と質問をお願いします。(3分)

2時間目

非認知能力を
抽出・分類・構造化する

2時間目の到達目標

1. 非認知能力を抽出することの意義を理解する—育成する人材像の具体化のために
2. 非認知能力の抽出・分類・構造化の方法を理解できるようになる
3. ワークを通じ、非認知能力を抽出・分類するためのスキルを身につけられるようになる

2時間目の構成

1. はじめに
2. 育成する人材像から非認知能力を抽出することの意味
 - 2.1. ワーク①の説明と実施
 - 2.2. ワーク②の説明と実施
3. 抽出した非認知能力を分類することの意味
 - 3.1. ワーク③の説明と実施
 - 3.2. 全体共有
4. まとめ 育成像・人材像の先にあるもの

2時間目の構成

1. はじめに
2. 育成する人材像から非認知能力を抽出することの意味
 - 2.1. ワーク①の説明と実施
 - 2.2. ワーク②の説明と実施
3. 抽出した非認知能力を分類することの意味
 - 3.1. ワーク③の説明と実施
 - 3.2. 全体共有
4. まとめ 育成像・人材像の先にあるもの

1. はじめに:

**育成すべき人材像を具体化する手段
としての「非認知能力」への着目**

教育改善への活用のポイント

非認知能力の観点で、専門学校に関わる多様な能力を言語化することを通して、教育改善として、以下が期待できます。

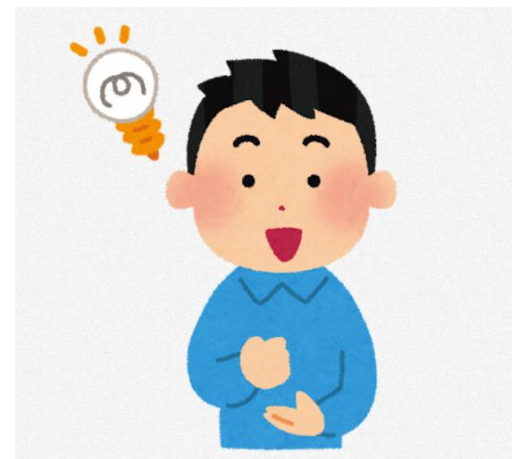
○人材像の設定・具体化の改善

2時間目に扱います

○教育課程編成の改善

○授業の目標設定の改善

○学習評価の改善



育成する人材像

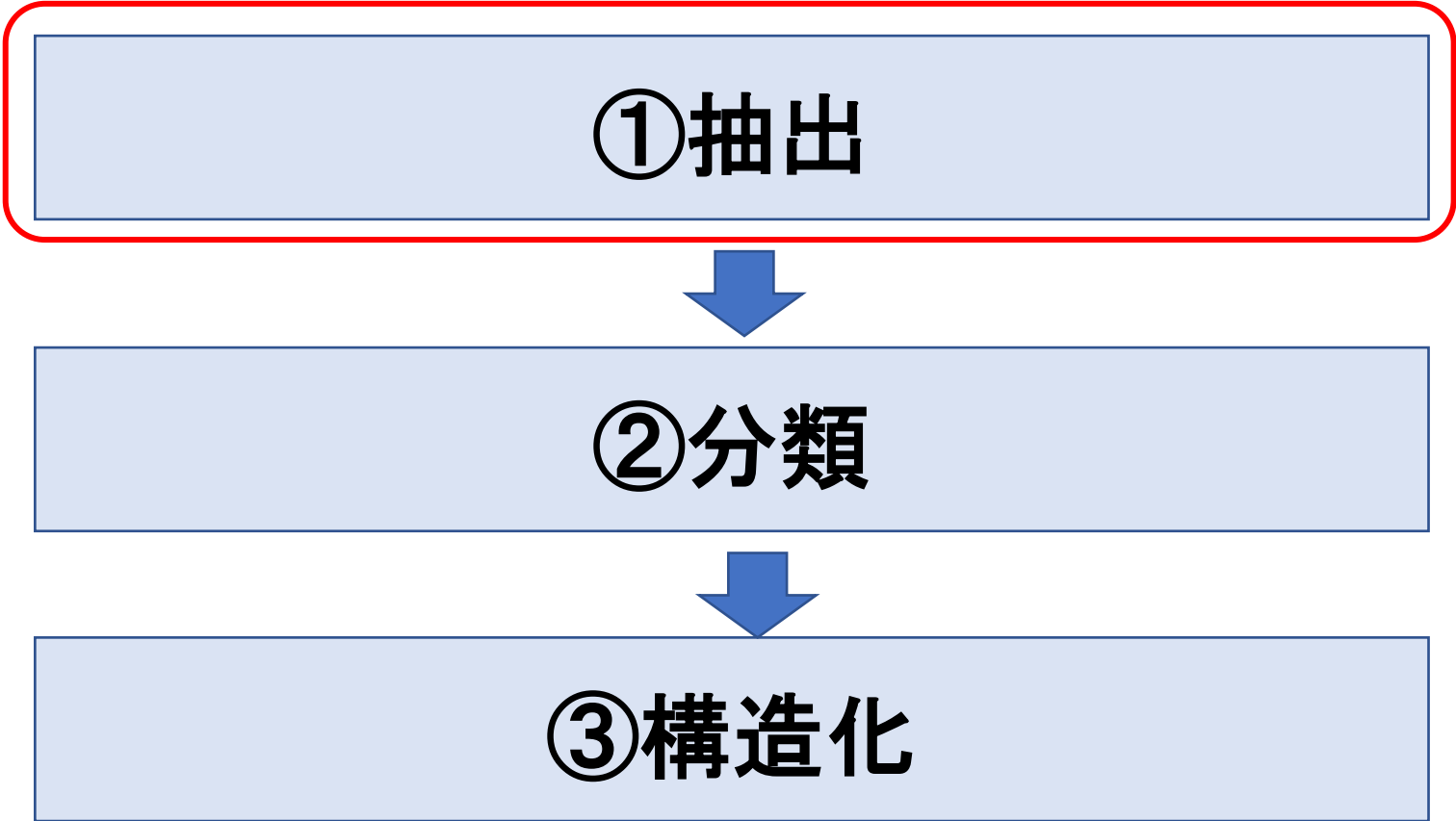
非認知能力の抽出

非認知能力をさらに分類、構造化できると…

日々の授業でどんな力を育成するのか、
それをどう評価するのかについて
明確化することができる！

非認知能力への着目の仕方

①抽出



```
graph TD; A[①抽出] --> B[②分類]; B --> C[③構造化];
```

②分類

③構造化

1. はじめに

2. 育成する人材像から非認知能力を抽出することの意義

2.1. ワーク①の説明と実施

2.2. ワーク②の説明と実施

3. 抽出した非認知能力を分類することの意義

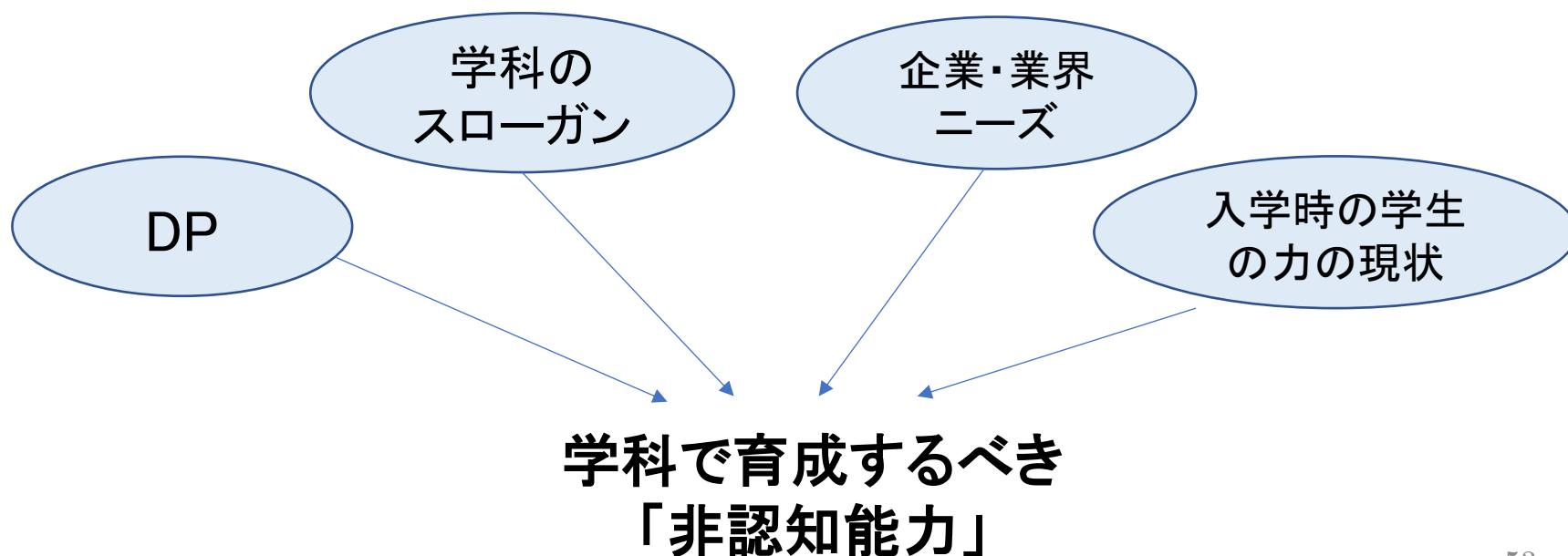
3.1. ワーク③の説明と実施

3.2. 全体共有

4. まとめ 育成像・人材像の先にあるもの

「非認知能力を抽出する」とは？

- 学科で育成すべき人材像を示すキーワード等から、そこにどんな「非認知能力」が含まれているのかに着目し、それを言語化すること。



(例) 学科でのスローガン



「就職したら美容師3年目」

どんな非認知能力が獲得できていれば、
「就職したら美容師3年目」といえるか？

(例) 学科のDP



(例) 以下のような能力を持つ生徒に対し、卒業を認定する。

1. ……をする力を持つ学生
2. ……に対し〇〇性を持つ学生
3. ……への〇〇心を持つ学生

DPで提示されている「力」「性質」「心」
に含まれている非認知能力とは何だろうか？

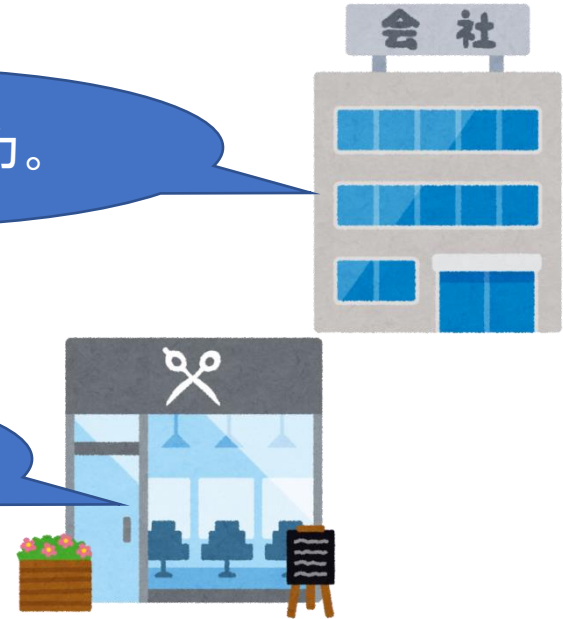
(例) 業界や企業のニーズ

入社前に求められる力は
なんですか？



チームで働く力。

チームで働く力と、業
界に対する愛。



業界やニーズが求めている力は、
具体的にどんな非認知能力？

(例)入学時の学生の能力の現状

本学科で育てたい人材像はあるけれど、入学してくる学生の現状を見ると、その理想を全て達成させるのは難しい。
でも、ある側面の力はあるし、伸びしろはある。
最低限の力を身につけさせたい。そしてまた、本人たちにも成長を実感してほしい！



例) A君の場合

- 素直で理解力はあるが、理解するのにとても時間がかかる。同時に色んなことをするのが苦手。
- 自分に自信がなく、引っ込み思案でなかなか行動に移せないが、思いやりはある



学生に最低限身に付けさせたい
非認知能力はなんだろうか？

非認知能力を抽出する意義①

学科で育成すべき力が言語化され抽出されていなかったら…

学科のスローガンの意味はなんとなく理解できているけど、私の授業ではどんな力を育成すべきなのか、どの部分を担っているのかは、正直ちゃんとうまく言えないな…。
授業目標の立て方に自信が持てない。



自分が担当する授業の位置づけが曖昧となり、
授業計画が立てづらくなる可能性がある

非認知能力が抽出されると、 授業計画やシラバス作成にも役に立つ！

本学科では「〇〇」力を身につけさせるのがゴールで、この授業では「〇〇」力のベースになる「△△力」を育成するための授業だな。
「△△力」の獲得を中心にした授業計画を立てればいいんだ！



非認知能力を抽出する意義②

学科で育成すべき力が整理されていなかったら…

それは…。学校でやるように決まっているカリキュラムだから、とりあえず授業を受けて練習してください。

先生

僕の目指す職にこの授業は意味がないような気がします。なぜこれを学ばなくてはいけないのか、よくわかりません。

学生

個々の授業の意義を
学生に十分説明できない可能性がある

**非認知能力が抽出されると、
科目の重要性や教える知識・技能・態度の重要性を
学生にわかりやすく説明できる！**

この職業では、〇〇力が求められます。〇〇力をつけるためには、*
の技能の繰り返しの練習が求められます。この授業は * *の
基礎を教える科目だから、あなた
にも必要な授業。しっかり受けてく
ださいね。

なるほど・・・
大事な授業なのだと
分かりました。
がんばります！



1. はじめに
2. 育成する人材像から非認知能力を抽出することの意義
 - 2.1. ワーク①の説明と実施**
 - 2.2. ワーク②の説明と実施
3. 抽出した非認知能力を分類することの意義
 - 3.1. ワーク③の説明と実施
 - 3.2. 全体共有
4. まとめ 育成像・人材像の先にあるもの

2.1. ワーク①の説明と実施

ワーク1

**学科で育てようとする非認知能力を
抽出しましょう**

ワーク1: 基本的な流れ

- ① 学科で育てようとする非認知能力を、
ワークシート①に4～5つ、
自分なりに書き出す
- ② ①で書き出した非認知能力が必要になる具体的な背景や文脈を書き出す
- ③ ①や②の考えの出発点を、
DP・スローガン、業界ニーズ、入学
時の状況との関連のつよさから考える。

ワーク1の目的

育成する人材像との関係で、どんな
非認知能力を育てようとしているのか、
自分の考えを言語化すること。

ワーク1を教育実践の現場で どう活用できるか？

- 自身が日頃担当している授業や行事等で、どんな力を育てようとしているのか、意識しやすくなり、学生にも伝えやすくなる！
- 授業内での到達目標の明確化や、評価方法もより考えやすくなる。シラバス作成や授業計画にも役立つ！
(「非認知能力を抽出の意義」①②を参照)

ワーク1の方法： 事例紹介を通じて

概要

ホテルブライダル系、美容系学校の先生方に、学科で、どんな非認知能力を育成しようとしているのかについて、ヒアリング。

- 各学科で掲げるスローガンに着目して、具体的な文脈を想定してもらいながら、非認知能力を4～5つ抽出。

事例紹介①

- 岡山情報ビジネス学院ホテルブライダル学科（OIC）
- ホテル業界、ブライダル業界の人材育成を行っており、学科で共有しているスローガンは「思いをかたちにする力」を育成する
- 学科が抱える課題
「思いをかたちにする力」の育成の在り方を教員間でいかに共有するか？

「思いをかたちにする力」 に含まれる非認知能力は…



表現力、観察力、協調性、
素直さ、勤勉さ



非認知能力	具体的な文脈
表現力	・ホテル業界では、お客様の手足となることが求められる ・ブライダル業界では、お客様の思い描いていることを、音楽や会場のセッティングの仕方等様々な方法で演出することが重要である
観察力	・ホテル業界では、お客様1人と接する時間が短いため、一瞬のあいだにいかにお客様の次の行動に気づけるかが大事になる ・ブライダル業界では、一人のお客様とじっくり関わることになるので、その中で気づける個数をいかに増やすかが大切になる
協調性	・責任、役割認識、結果が求められるなかで培うべき協調性がある。「単なる仲良しグループ」ではなく、チームとしてのメンバーのいいところ・悪いところを互いに観察して、意見を言い合い、メンバー内の向上を図っていくこと。1人のお客様にサービスをするためには、一人一人のパーツが1つにならないとそれが成り立たない。
勤勉さ	・地道にコツコツと黒子的な働き方ができるかどうか。お客様が光であって、私たちは、泥臭い仕事をやっていかななくてはいけないという自覚。
素直さ	・言われたことをちゃんとやるかどうか。ただこれは、ホテルブライダル業界ならではのというよりは、社会人としての基本的な素直さというところ。

事例紹介②

- YIC京都ビューティー専門学校美容科
- 「就職したら美容師3年目」という言葉のスローガンに掲げている
- 学科が抱える課題
どのような力を身につけさせたら
「就職したら美容師3年目」の状態といえるか？それを学科内でいかに共有するか？

「就職したら美容師3年目」 に含まれる非認知能力は…



表現力、コミュニケーション力、気づく
力、柔軟性



非認知能力	具体的な文脈
表現力	・自分のファッションや外見など自らの魅力をお客様に表現することができる力。それとの関係で例えばInstagramフォロワー数をいかにつけられるか等（SNSが集客に大きな影響をもたらす）。それだけでなく、自分が作ったヘアスタイルを、お客様に適切にプレゼンテーションし、伝えられるかどうかも大切である。
コミュニケーション力	・お客様の要望をしっかりとヒアリングしたうえで、相手の思っていることを誤りなく受け入れる力、誤りなくこちらの提案を伝える力。カウンセリング、コンサルティング、クロージングという一連の過程をしっかりと成し遂げられるためのコミュニケーション能力。
気づく力	・お客様の行動を観察していく力。客観的に物事を考え、答えのないことに対して自分で課題を発見していく力。例えば、「あの雑誌が読みたい」とお客様に言わせることはダメで、その前に、これまでのお客様から聞いて来た好み等を踏まえて、自分から提案し、用意しておくなど。 ・また、職場の先輩のしている作業を見て、指示される前に次何が求められるかを見極め、行動する力。
柔軟性	・自分の欠点を指摘されたときに素直に受け止め、改善していくことができる。適応しながら、自分の意見も伝えていく力。美容業界では、トレンドがどんどん変わっていくので、学校で学んだことが通用しないことが多々出てくるため、それについていける素直さも大切だし、お客様のご指摘をどういう風に受け止めるかという意味で柔軟性が求められる。

ワーク1で意識してほしいこと

1. 学科ではどんな非認知能力を育成しようとしているのかを考える。
自分なりの言葉でOKです！
2. その力が必要とされる具体的な背景や文脈を書き出してみる。
3. 学科の中で、いくつかの職種を養成している場合、2は職種ごとに書き出す。

ワーク1 個人ワーク(10分)

ワークシート①を使って、育成しようとする非認知能力を4～5つ程度書き出すとともに、その背景や文脈を考えてみましょう。

●「育成しようとする非認知能力」の例

- ・その業界で重視されている力
- ・学生の多くが入学時点に持っている力で、成長させたい力
- ・学校のDPや教育目標との関係で重視される力

* 参考資料

日本生涯学習総合研究所が提示している16の非認知能力要素

参考：日本生涯学習総合研究所が提示している16の非認知能力要素

表 3 能力の要素

認知能力	①基礎学力 ②基礎的な知識・技能 ③専門性・専門知識				
非認知能力	④問題解決力 ⑤批判的思考力 ※1				
	⑥協調性	⑦コミュニケーション力	⑧主体性	⑨自己管理能力	
	⑩自己肯定感	⑪実行力	⑫統率力	⑬創造性	⑭探究心
	⑮共感性	⑯道徳心	⑰倫理観	⑱規範意識	⑲公共性

※1：④ ⑤は，認知能力に区分される場合もある

1. はじめに
2. 育成する人材像から非認知能力を抽出することの意義
 - 2.1. ワーク①の説明と実施
 - 2.2. ワーク②の説明と実施**
3. 抽出した非認知能力を分類することの意義
 - 3.1. ワーク③の説明と実施
 - 3.2. 全体共有
4. まとめ 育成像・人材像の先にあるもの

ワーク2

(1) ワーク1で作成した個人ワークシートをグループ内で共有しましょう

(15分)

(2) グループで共有した内容について、1グループ3分程度、ご発表をお願いします。

ワーク2の目的

- 育成する人材像を、今後学科内で具体化していくために、それぞれの先生がどのように非認知能力を取り上げているのか、具体的な文脈を重視しているのか確認する。

その際、何を出発点にして非認知能力を取り上げているのかについても確認する。
(ワークシート①の「関連のつよさ」の項目)

➤ここでは、「共有」が目的

ワーク2を教育実践の現場で どう活用できるか

- 学科で育成する人材像にたいする共通認識を作るにあたって有効。
- どんな力を育成しようとしているのか？
- どんな言葉でそれを表現しているのか？
- 何を出発点に考えているのか？

を確認しあうことで、現時点での共通認識
やズレを把握することができる！



学科の目標設定や授業計画等の検討への活用

ワーク2の方法

1. 個人で記入したワークシートを順番に発表する（取り上げた非認知能力名と、具体的な文脈）
2. それぞれどんなことを出発点に非認知能力を書き出したのかについて確認をする。
共通点や異なる点を確認する。
（「関連のつよさ」の項目）
3. 学科で重視しようとしている非認知能力として、共通していると思うものを探る

ワーク2で 意識してほしいこと

- 「非認知能力名」や「具体的な文脈」が似ていても、先生によって表現が異なっていたり、関連の強さをとらえるポイントが違っていたりすることがあるが、その違い、もしくは共通点を確認しあうことが大切。
- 将来的に学科内で、この内容は「表現力」、この行動は「コミュニケーション能力」と定義を決めていければOK

1. はじめに
2. 育成する人材像から非認知能力を抽出することの意義
 - 2.1. ワーク①の説明と実施
 - 2.2. ワーク②の説明と実施
- 3. 抽出した非認知能力を分類することの意義**
 - 3.1. ワーク③の説明と実施
 - 3.2. 全体共有
4. まとめ 育成像・人材像の先にあるもの

非認知能力への着目の仕方

①抽出



②分類



③構造化

「非認知能力を分類する」とは？

▶抽出した非認知能力を、「職業専門的側面」と「社会人基礎的側面」に分ける(分解する)こと

職業専門的側面

業界で求められる特有の非認知能力

社会人基礎的側面

業界に限らず一般的な社会人になるために必要な非認知能力

非認知能力の分類例

(ホテルブライダル業界：OICの場合)

非認知能力	具体的な文脈
表現力	職業専門的側面 ・ホテル業界では、お客様の手足となることが求められる ・ブライダル業界では、お客様の思い描いていることを、音楽や会場のセッティングの仕方等様々な方法で演出することが重要である 社会人基礎的側面 ・社会人としてのある程度の気遣い

非認知能力の分類例 (美容業界: YICの場合)

非認知能力	具体的な文脈
表現力	職業専門的側面 • 自分のファッションや外見など自らの魅力をお客様に表現することができる力。それとの関係で例えばInstagramフォロワー数をいかにつけられるか等 (SNSが集客に大きな影響をもたらす)。 • それだけでなく、自分が作ったヘアスタイルを、お客様に適切にプレゼンテーションし、伝えられるかどうかも大切である。 社会人基礎的側面 • サロンへの志望動機などを適切に述べる力。

分類の意義①

教育実践の現場でどう活用できるか

- ・入学時の段階で学生がどんな力を持っているのか、社会人基礎的側面の視点から把握しやすくなる
- ・入学時点で学生自身に目標を立てさせる際に、「この側面のこの力を1番伸ばしたい」というように、設定させやすくなる

分類の意義②

～発展編～

- ・ 専門学校ならではの強みを認識し、言語化することができる
- ・ 自分たちが養成している非認知能力の粒度をあげることができる
- ・ カリキュラム設計や授業設計のために

2時間目の構成

1. はじめに
2. 育成する人材像から非認知能力を抽出することの意義
 - 2.1. ワーク①の説明と実施
 - 2.2. ワーク②の説明と実施
3. 抽出した非認知能力を分類することの意義
 - 3.1. ワーク③の説明と実施**
 - 3.2. 全体共有
4. まとめ 育成像・人材像の先にあるもの

ワーク3(15分)

非認知能力を
分類してみましょう

ワーク3の目的

グループ内で非認知能力を1つ取り上げ、
職業専門的側面・社会人基礎的側面で分類して
書き出すことを通じて、学科で育成しようとする非認知
能力をより精密に言語化すること。

ワーク3の方法

1. グループ内で、学科で育成したいと思う非認知能力を1つ選び、ワークシート②の表に書き込む。
2. 1で書き込んだ非認知能力について、「職業専門的側面」と「社会人基礎的側面」とに分けて具体的な文脈を記入する。
3. 複数の職種を育成している学科の場合は、2つの側面それぞれで「〇〇の場合」「△△の場合」と分けて記入する。

ワーク3のポイント

- ワーク1よりも、具体的な文脈についてより、丁寧書き出してみましよう。5W1Hを意識。
 - 職業専門的側面は、その業界で求められる独自の側面。「〇〇業界では、* *という場面で、お客様／先輩が・・・な行動をするときに、◇◇な対応が求められるため、～～～な力が求められる」
 - 社会人基礎的側面は、業界に限らず一般的な社会人になるために必要な非認知能力。
- 例) ホテル業界特有の協調性の発揮のためには、まず、基本的な人間関係の中での協調性を身につけておく必要がある

1. はじめに
2. 育成する人材像から非認知能力を抽出することの意義
 - 2.1. ワーク①の説明と実施
 - 2.2. ワーク②の説明と実施
3. 抽出した非認知能力を分類することの意義
 - 3.1. ワーク③の説明と実施
 - 3.2. 全体共有**
4. まとめ 育成像・人材像の先にあるもの

グループ発表 解説

発展編

非認知能力を「構造化」する

非認知能力への着目の仕方

①抽出



②分類



③構造化

各非認知能力全てを分類した表のイメージ ～OICの事例より～

ウェート

表現力	職業専門的: ・お客様の手足となる(ホテル業界) ・お客様の思い描いていることを演出する(ブライダル業界) 社会人基礎的: ・社会人としての最低限の気遣い	◎
		○
観察力	職業専門的: ・一瞬のあいだにいかにお客様の次の行動に気づけるか(ホテル業界) ・一人のお客様との関わりのなかで気づける個数をいかに増やすか (ブライダル業界) 社会人基礎的: ・社会人としての最低限の観察眼	◎
		○
協調性	職業専門的: ・責任、役割認識、結果が求められるなかで培うべき協調性 (ホテル・ブライダル) 社会人基礎的: ・社会人としての、同じ目標に向かって作業をするチームワーク	◎
		◎
勤勉さ	職業専門的: ・地道にコツコツと黒子的な働き方ができるかどうか。(ホテル・ブライダル) 社会人基礎的: ・時間を守る、出欠、レポート期日	◎
		◎
素直さ	社会人基礎的: ・言われたことをちゃんとやるかどうか	○

各非認知能力全てを分類した表のイメージ ～YICの事例より～

ウェート

表現力	職業専門的: ・自分のファッションや外見など自らの魅力を表現することができる力 ・自分が作ったヘアスタイルを、適切にプレゼンテーションする力	◎
	社会人基礎的: ・サロンへの志望動機などを適切に述べる力	○
コミュニケーション力	職業専門的: ・お客様の要望をしっかりとヒアリングしたうえで、相手の思っていることを誤りなく受け入れる力、誤りなくこちらの提案を伝える力。	◎
	社会人基礎的: ・他者の話をしっかりと聞くことができる力	○
気づく力	職業専門的: ・お客様の行動を観察していく力。客観的に物事を考え、答えのないことに対して自分で課題を発見していく力。 ・先輩のしている作業を見て、指示される前に次何が求められるかを見極め、行動する力。	◎
	社会人基礎的: ・最低限の目配り・気配り	◎
柔軟性	職業専門的: ・自分の欠点を指摘されたときに素直に受け止め、改善していくことができる。適応しながら、自分の意見も伝えていく力。	◎
	社会人基礎的: ・他者の指示に素直に従う力。	◎

非認知能力の構造図イメージ

～OICの場合～

応用

職業専門的能力としての「表現力」

職業専門的能力としての「観察力」

職業専門的能力としての「協調性」「勤勉さ」

基礎

社会人基礎力としての
「協調性」「勤勉さ」「素直さ」「表現力」「観察力」



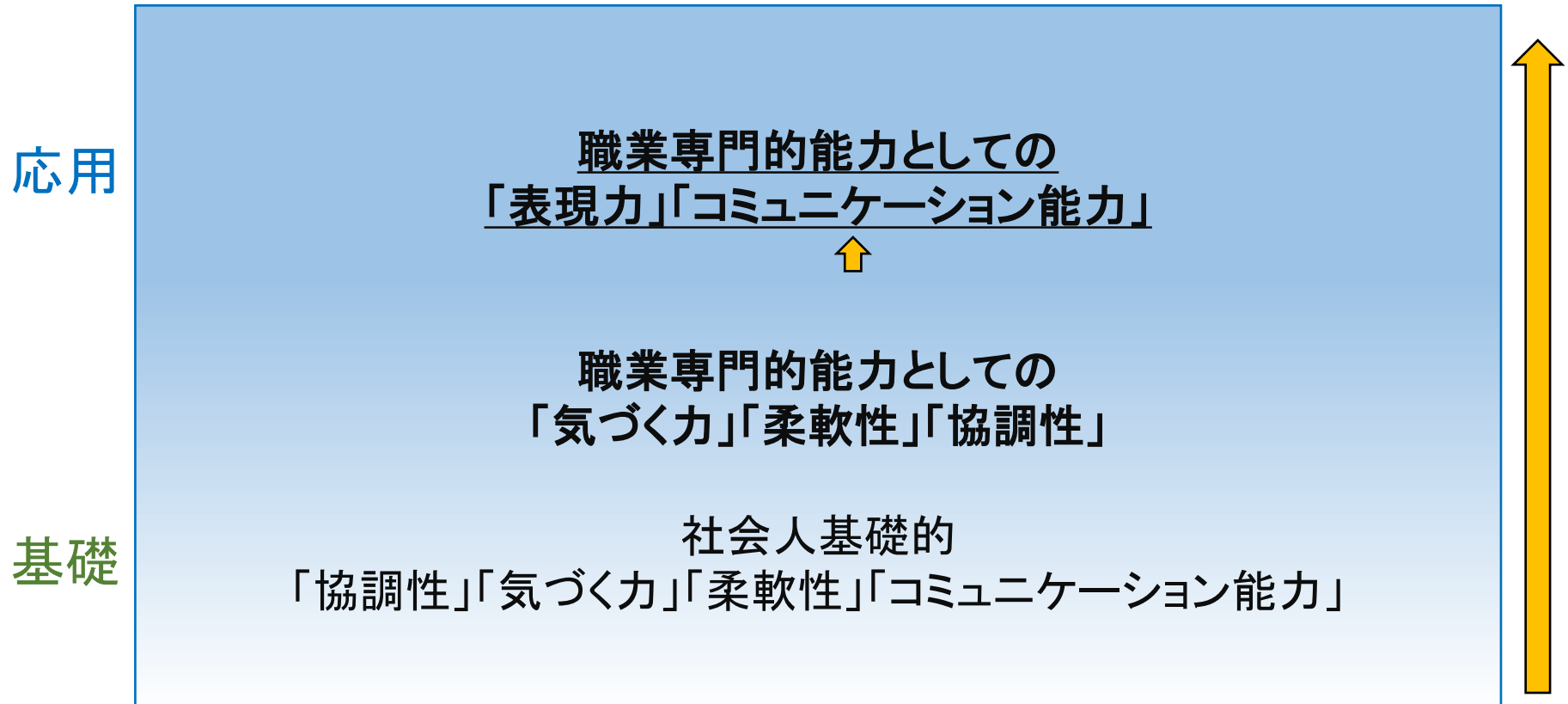
活用パターン①

構造図を作成することで

学科で育成する力の理想像が立てやすくなる

非認知能力の構造図イメージ

～YICの場合～



活用パターン①

構造図を作成することで

学科で育成する力の理想像が立てやすくなる

構造図の活用パターン②

学校で最低限身に付けさせるべき力についても検討が可能になる

例) A君の場合

- 素直で理解力はあるが、理解するのにとても時間がかかる。同時に色んなことをするのが苦手。
- チームでは同調的に動くが、引っ込み思案で主体的になかなか行動に移せない。でも、思いやりはある。



A君の場合

A君のように、理解に時間はかかるが素直で、的を絞れば自分がやるべきことに取り組むことができ、成長が期待できる学生は多々いる。個人面談をしていると、引っ込み思案だが人への思いやりもあることが見て取れる。社会人基礎的側面での「素直さ」「協調性」はあるように思う。でも、言うべきときにメンバーへの意見を控えてしまう「協調性」だけでは、この業界では不十分。

こうした学生は一定程度いるので、授業内のいくつかのコマで、業界に必要な職業専門的な「協調性」を具体的に説明し、演習の際は、本人の背中を押してあげられるような声掛けを適宜するようにしよう。



構造図の活用パターン③

企業との連携の場面で、
育成すべき力のすり合
わせがしやすくなる

- 学科が育成している力について説明しやすくなる
- 各企業が求める力についても整理でき、どの力を自分の学科のカリキュラムに組み込むかの検討がしやすくなる

	A サロン	B サロン	C サロン
社・表現力		○	
職・表現力	○		◎
社・コミュニケーション能力	◎	◎	◎
職・コミュニケーション能力	◎	◎	◎
社・気づく力	○	○	
職・気づく力			◎
社・柔軟性	○	○	○
職・柔軟性			○

1. はじめに
2. 育成する人材像から非認知能力を抽出することの意義
 - 2.1. ワーク①の説明と実施
 - 2.2. ワーク②の説明と実施
3. 抽出した非認知能力を分類することの意義
 - 3.1. ワーク③の説明と実施
 - 3.2. 全体共有
4. まとめ 育成像・人材像の先にあるもの

まとめ：人材像、能力像の設定の 重要性とその先にあるもの

育成する人材像を明確化するために…

**学科で育成する非認知能力を
抽出・分類・構造化する**



教育改善の際にどんなことが可能になるか？

- ✓ 各授業の到達目標の明確化、学生への授業の意義の説明の容易化
- ✓ 入学時点の学生の力に応じた、最低限身に付けさせるべき力の育成の仕方の検討に有効
- ✓ 企業や高校の先生方に学科で重視している力を伝える際にも役立つ

3時間目

**教育活動を通じて
非認知能力を育む**

2時間目ふりかえり:

非認知能力の抽出

「就職したら美容師3年目」
に含まれる非認知能力



表現力、コミュニケーション力、
気づく力、柔軟性



非認知能力	具体的な文脈
表現力	・自分のファッションや外見など自らの魅力をお客様に表現することができる力。それとの関係で例えばInstagramフォロワー数をいかにつけられるか等（SNSが集客に大きな影響をもたらす）。それだけでなく、自分が作ったヘアスタイルを、お客様に適切にプレゼンテーションし、伝えられるかどうかも大切である。
コミュニケーション力	・お客様の要望をしっかりとヒアリングしたうえで、相手の思っていることを誤りなく受け入れる力、誤りなくこちらの提案を伝える力。カウンセリング、コンサルティング、クロージングという一連の過程をしっかりと成し遂げられるためのコミュニケーション能力。
気づく力	・お客様の行動を観察していく力。客観的に物事を考え、答えのないことに対して自分で課題を発見していく力。例えば、「あの雑誌が読みたい」とお客様に言わせることはダメで、その前に、これまでのお客様から聞いて来た好み等を踏まえて、自分から提案し、用意しておくなど。 ・また、職場の先輩のしている作業を見て、指示される前に次何が求められるかを見極め、行動する力。
柔軟性	・自分の欠点を指摘されたときに素直に受け止め、改善していくことができる。適応しながら、自分の意見も伝えていく力。美容業界では、トレンドがどんどん変わっていくので、学校で学んだことが通用しないことが多々出てくるため、それについていける素直さも大切だし、お客様のご指摘をどういう風に受け止めるかという意味で柔軟性が求められる。

非認知能力を抽出すると 教育実践の現場でどう活用できるか？

- 自身が日頃担当している授業や行事等で、どんな力を育てようとしているのか、意識しやすくなり、学生にも伝えやすくなる！
- 授業内での到達目標の明確化や、評価方法もより考えやすくなる。シラバス作成や授業計画にも役立つ！



**非認知能力を授業や行事、到達目標、シラバス
に具体的に落とし込む方法とは？**

3時間目の構成

1. 非認知能力育成と専門学校教育の多様な接点
(15分)

2. 【ワーク】

自校の教育活動に引き付けて非認知能力の
育み方を考える(70分)

- a. 【くらべる】 事前・個人課題の内容共有 & 共通点・差異の確認
- b. 【あわせる】 コアとなる非認知能力を育成するための学科・コースの
「共通言語」づくり
- c. 【そろえる】 コアとなる非認知能力をどのような観点・水準で
育成・評価するか形成的評価シートづくり

3時間目の到達目標

1. 非認知能力を育む専門学校内の多様な場面を知る
2. 非認知能力を育む上での認知能力（知識・技能等）の関連性を考える
3. 非認知能力を育成するための学科・コース共通の育成・評価シートをつくってみる

1. 非認知能力育成と 専門学校教育の多様な接点

非認知能力育成の重要性と習慣の関係

例) マシュマロテスト

今すぐ食べていい1個があるが、食べずに
20分待てば2個もらうことができる。

マシュマロの欲求を先延ばしにできるか？



幼児期からの上記のような行動の積み重ねが自制心や意志を貫く力につながり、それが将来の地位達成や健康に影響する

非認知能力と認知能力（知識・スキル）の関係

非認知能力としての「自制心」は我慢強さ？根性？気合い？

マシュマロを先延ばしにできた子どもは様々な戦略を利用

- 手で顔を覆っておやつを見ない
- 歌で紛らわせる
- 「待てば2個」とつぶやき続ける

自制心は、自己コントロールに必要な知識やスキル、行動を
知っていることによって大幅に変わる



職業教育における非認知能力と認知能力の関係
≡ 教育（訓練）可能性

非認知能力の育成と専門学校教育の親和性

そもそも今までの「マシュマロ」は我慢してまで得たいものだったのか？

専門学校生の学習意欲の向上

ベネッセ教育総合研究所
「専門学校生の学習と生活に関する実態調査」(2017年)

関心・興味： 高校時代と比べて学びに対する態度が積極的に

【高校時代を振り返って】	【現在】
「授業に関心・興味をもてなかった」	「授業に関心・興味をもてない」
46.9%	33.1% 【-13.8p】

※「とても+まああてはまる」の合計%



「興味がある内容で学ぶ」「職業を通じて社会とつながる」など「学ぶ」と「働く」の近さが
非認知能力を伸ばす成長・リカバリのチャンスに！

専門学校教育ならではの「リカバリ」の可能性

～業界特有の非認知能力の育成が汎用的な非認知能力も高める～

非認知能力	具体的な文脈
表現力	職業専門的側面 ・ホテル業界ではお客様の手足となることが求められる ・ブライダル業界では、お客様の思い描いていることを、音楽や会場のセッティングの仕方等様々な方法で演出することが重要である 社会人基礎的側面 ・社会人としてのある程度の気遣い

業界人になるために必要な非認知能力の育成を通じて、結果的に社会人になるために必要な非認知能力を高めていく可能性

非認知能力を育成する多様な場面と 知識・スキルの習得の場面へ注目する意味①

～「自制心」を例に～

1. 正課内教育

行動: 自分の価値観・ルールでなく実習先・訪問先の
価値観・ルールに沿って適切な行動ができるか

認知能力: 訪問先のルール、適切な振る舞いに対する
知識の有無



2. 日々の課題への取組み

行動: 誘惑に負けず日々のやるべき課題に取り組めるか

認知能力: 学習スキルや学習習慣の有無



マナー研修・講座のような正課内教育だけでなく、
日々の教育活動の様々な場面を
「自制心」を育成する1つの機会として
「捉え直す」ことができる



(場面)清掃活動

(非認知能力)観察力

認知能力:その職業で求められる業務の理解
生活習慣

(目標)日頃から身の回りのゴミ(課題)に気づき、それに素早く対処することができる

≠ 決められた掃除の時間だけ対応する

(場面)ボランティア活動

(非認知能力)気づく力

認知能力:〇〇サービスの知識

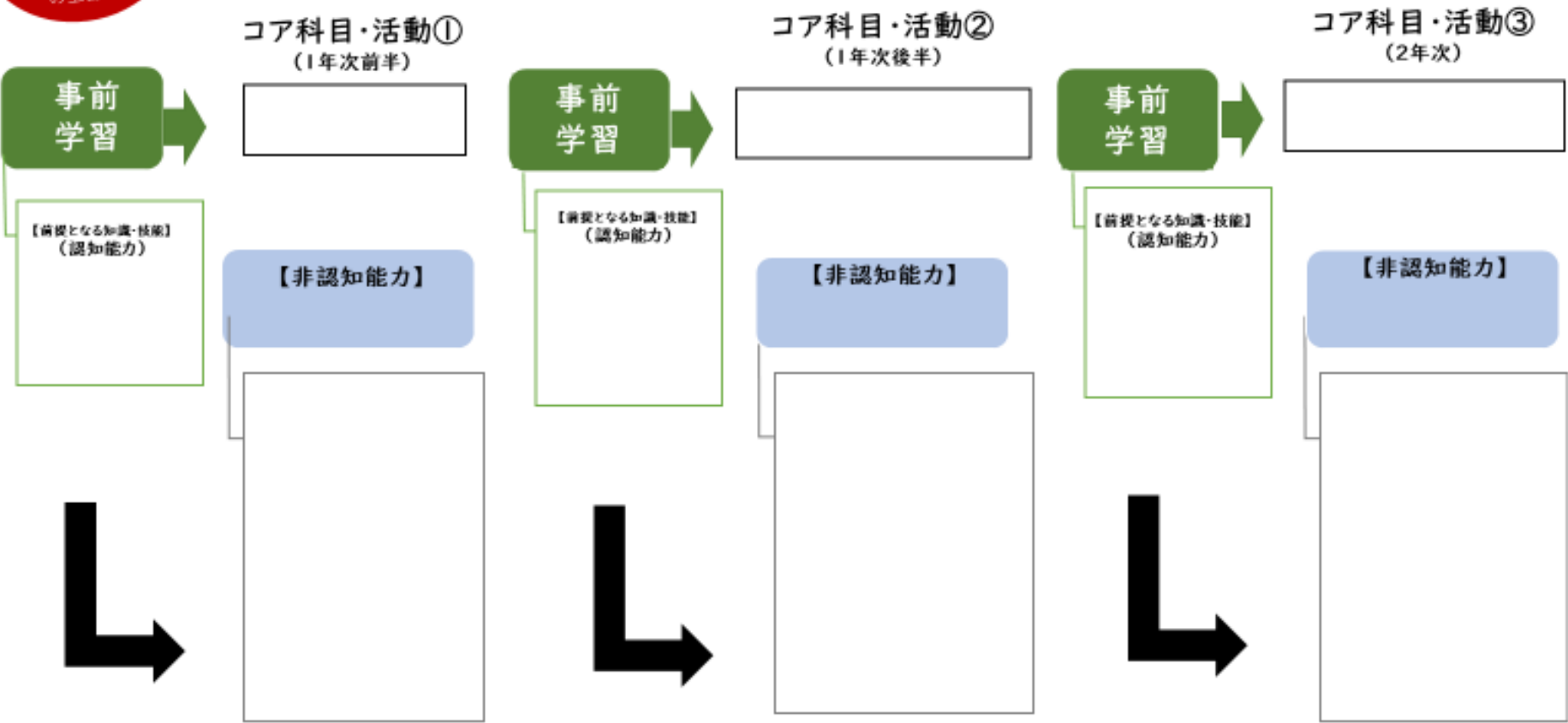
(目標)

自分がしてあげたいことではなく、相手が求めていることを素早く察知し、それに応えることができる



記入シート
※A3出力
事前ワークで
個々に
データで配布
の上記入

学科・コースを通じて育成したいコアとなる非認知能力： ****



非認知能力を育成する多様な場面と知識・ スキルの習得の場面へ注目する意味②

～形成的評価の重要性～

＜評価の種類＞

評価	内容
診断的評価	教育活動の前に行う。学生有能力・資質、モチベーション、学習習慣の有無等を把握・評価する。
形成的評価	授業の途中に教育活動の展開をコントロールし、教授活動へのフィードバックを行う。授業を学生がどのくらい理解しているかを評価する。
総括的評価	授業が終わった際に、その活動の成果の把握や評価、認定を行う

2.【ワーク】

**自校の教育活動に引き付けて
非認知能力の育み方を考える**

事前課題(1)～(3)の意図：
コアとなると思われる科目・行事を絞り込み

- ・非認知能力育成の観点でカリキュラムを捉え直し、
核となる教育活動を明らかにする

事前課題(4)～(6)の意図: なぜ非認知能力と認知能力の関係性を考える 必要があるのか？

- ・適切な状況・場面で非認知能力を発揮するための
思考・判断
- ・継続的な(再現性のある形での)非認知能力の
発揮の土台としての基礎的な知識・スキルの必要性

本日のワーク

1. チームでワーク2シート(コアとなる科目に必要な非認知能力・認知能力、具体的場面、課題・目標)を作成してみる
2. ワーク3シート(形成的評価シート)の一部を作成してみる

ワーク1～3の目的

非認知能力を形成的評価するためのスキルを学ぶ。

具体的には、

- 学科のコア科目・活動において非認知能力をどんな場面で育成するのか
- 育成のためにどんな課題を課すのか
- どんな到達目標を設定するのか
- どんな観点から評価するのか

について、ワークシートの作成を通じてを学ぶ。

ワーク1: 作成した事前課題を比べる

個人で作成してきた事前課題(4)～(6)の共通点・差異をチームで確認する

ワーク1の手順

くらべる

①事前にチームで決めていた「最もコアになる」科目・行事に関して、
個人で書いてきた以下の内容について、差異・共通点を確認する
(10分)

- ・求められる非認知能力
- ・前提となる科目(認知能力)
- ・どのような場面(状況)でどのような課題を課すか
- ・何ができていれば、その非認知能力を十分に
発揮できていると思うか。

※改めて上記の内容を見返した時に 新たに追加すべき科目・
行事・活動はないか？も確認

②議論の結果の全体共有(3分)

ワーク2: チームでワークシート①を作成する

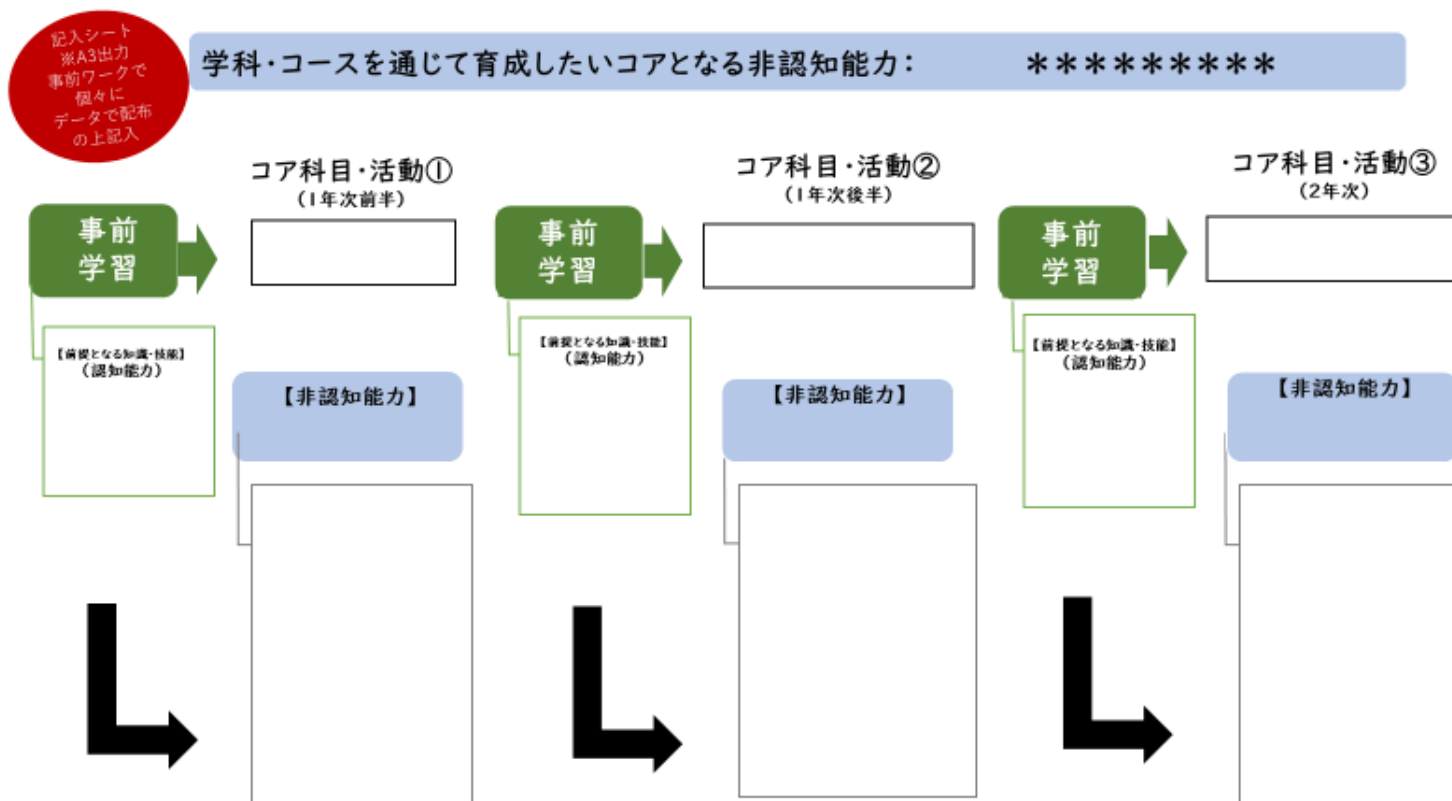
※事前課題(8)に対応

ワーク1の共有をふまえ、学科コースとしての
事前課題(4)～(6)の共通版(ワーク2用シート)
完成を目指す

ワーク2の手順つづき

あわせる

各自の共有をふまえ、学科・コースとしての1つの
共通版【(4)～(6)】の完成を目指す(20分)



ワーク2の手順に関する説明

ワーク2のシートに、事前課題(4)～(6)の共通版を作成する。

※コア科目・活動①～③すべてに対して「場面」・「課題」・「目標」・「評価観点」を書き上げる必要はありません。本日は時間が限られているため、まず「コア科目・行事③」(2年次)の記述から取り組んでください。

※「コア科目・行事③」(2年次)の記述についても、今日完ぺきに「完成」させる必要はありません。

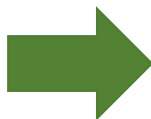
完成させようとするプロセスを通じた、「気づき」を重視します。

例

学科・コースを通じて育成したいコアとなる非認知能力: **協調性**

コア科目・活動
(2年次)

事前学習



模擬挙式

【前提となる知識・技能】
(認知能力)

挙式全体の流れを理解し、当日の運営
におけるポイントや想定されるイレギュ
ラーを洗い出せる

気づく力・問題解決力

場面: 模擬挙式における〇〇の場面

課題: 挙式直前のイレギュラーな変更を課し、
チームで対応しながら協働できているか確認
する

目標: 挙式の状況を把握し、適切な指示や対
応ができている

評価観点: イレギュラーに対するスケジュール
調整・サポート、新郎新婦やゲストに対する声
掛けや気配り



非認知能力	具体的な文脈
表現力	・自分のファッションや外見など自らの魅力をお客様に表現することができる力。それとの関係で例えばInstagramフォロワー数をいかにつけられるか等（SNSが集客に大きな影響をもたらす）。それだけでなく、自分が作ったヘアスタイルを、お客様に適切にプレゼンテーションし、伝えられるかどうかも大切である。
コミュニケーション力	・お客様の要望をしっかりとヒアリングしたうえで、相手の思っていることを誤りなく受け入れる力、誤りなくこちらの提案を伝える力。カウンセリング、コンサルティング、クロージングという一連の過程をしっかりと成し遂げられるためのコミュニケーション能力。
気づく力	・お客様の行動を観察していく力。客観的に物事を考え、答えのないことに対して自分で課題を発見していく力。例えば、「あの雑誌が読みたい」とお客様に言わせることはダメで、その前に、これまでのお客様から聞いて来た好み等を踏まえて、自分から提案し、用意しておくなど。 ・また、職場の先輩のしている作業を見て、指示される前に次何が求められるかを見極め、行動する力。
柔軟性	・自分の欠点を指摘されたときに素直に受け止め、改善していくことができる。適応しながら、自分の意見も伝えていく力。美容業界では、トレンドがどんどん変わっていくので、学校で学んだことが通用しないことが多々出てくるため、それについていける素直さも大切だし、お客様のご指摘をどういう風に受け止めるかという意味で柔軟性が求められる。

【対象】に注目した「評価観点」の記入例

「気づく」力の育成・評価シート

(例) サロンサービス演習において、【お客様や先輩の目線に立って
サロンで「気づき」、行動できるか】という課題を課した場合

	水準1	水準2	水準3	水準4
お席に座られたお客様への気遣い・サービス	対 顧客			
職場の先輩の補助	対 職場の先輩・同僚			

【構成要素】に注目した「評価観点」の記入例

「ふりかえる」力の育成・評価シート

(例)就職準備演習において【これまでの専門学校での学びや経験を経て何を得たかの総括を踏まえた自己分析】という課題を課した場合

	水準1	水準2	水準3	水準4
評価観点1 観点1: 経験の意味づけ・価値づけ	行動の意図の有無、経験からの気づき・教訓の抽出の程度			
評価観点2 観点2: 自分を深く理解している	自己理解、自己分析の質や一貫性			
評価観点3 観点3: 自分を肯定的に捉え表現できる	土台となる自己肯定感、自尊感情			

それでは、ワーク2に取り組んでください

ワーク1・2の意義

- 学科で育成している非認知能力を、具体的な授業・行事の場面でどのように評価するのかを考えるにあたって有効。
- 最もコアとなる科目・活動とその基盤となる科目も合わせて検討することで、学科全体のカリキュラムとの関係のなかで、その科目で非認知能力をいかに評価するのかについて、考えることができる。
- また、こうしたポイントを押さえることで、評価の負荷を軽減することもできる

ワーク3: チームでワークシート ②を作成する

※事前課題(9)に対応

完成させた共通版の「評価観点」の中から1つ選び、
その観点にかかわる非認知能力の発揮状況をどのよ
うな水準で評価すべきかチームで検討

ワーク3

完成させた共通版の「評価観点」から1つ選び、その観点にかかわる非認知能力の発揮状況をどのような水準で評価すべきかチームで検討しましょう。(20分)

※事前課題(9)に対応



ワーク3の手順

そろえる

【個人:10分】

①【個人】ワーク2で設定したコア科目・行事③における非認知能力を発揮状況を確認する具体的な「場面」・「課題」・「目標」・「評価観点」を踏まえながら、自分なりに到達目標、評価水準を定めてみましょう

②【チーム】①をチームで共有し、共通版のワーク3用シートを作成する(10分)

非認知能力	具体的な文脈
表現力	・自分のファッションや外見など自らの魅力をお客様に表現することができる力。それとの関係で例えばInstagramフォロワー数をいかにつけられるか等（SNSが集客に大きな影響をもたらす）。それだけでなく、自分が作ったヘアスタイルを、お客様に適切にプレゼンテーションし、伝えられるかどうかも大切である。
コミュニケーション力	・お客様の要望をしっかりとヒアリングしたうえで、相手の思っていることを誤りなく受け入れる力、誤りなくこちらの提案を伝える力。カウンセリング、コンサルティング、クロージングという一連の過程をしっかりと成し遂げられるためのコミュニケーション能力。
気づく力	・お客様の行動を観察していく力。客観的に物事を考え、答えのないことに対して自分で課題を発見していく力。例えば、「あの雑誌が読みたい」とお客様に言わせることはダメで、その前に、これまでのお客様から聞いて来た好み等を踏まえて、自分から提案し、用意しておくなど。 ・また、職場の先輩のしている作業を見て、指示される前に次何が求められるかを見極め、行動する力。
柔軟性	・自分の欠点を指摘されたときに素直に受け止め、改善していくことができる。適応しながら、自分の意見も伝えていく力。美容業界では、トレンドがどんどん変わっていくので、学校で学んだことが通用しないことが多々出てくるため、それについていける素直さも大切だし、お客様のご指摘をどういう風に受け止めるかという意味で柔軟性が求められる。

【対象】に注目した「到達目標・評価水準」の記入例

「気づく」力の育成・評価シート

(例) サロンサービス演習において、【お客様や先輩の目線に立ってサロンで「気づき」、行動できるか】という課題を課した場合

	水準1	水準2	水準3	水準4
【対お客様】 お席に座られたお客様への気遣い・サービス	お客様に言われる前に、お客様が望むことについての予測が不十分で、行動ができていない	お客様に言われる前に、お客様が望むことについて、気づくのがやや遅く、行動も遅れている	お客様から言われる前に、お客様が望むことを予測を立て、しっかり行動に移すことができる	お客様から言われる前に行動できるだけでなく、過去のお客様の情報から、お客様に気持ちよく過ごしてもらえるような気づかい、サービスができる。
【対先輩】 先輩の補助	先輩から指示されても、行動が遅れる。	先輩から指示されれば、指示されたことは行動できる	先輩から指示される前に、自らがすべき行動をすることができる	先輩から指示される前に行動ができる且つ、先輩がこれからするであろう行動を予測し、先回りしてフォローに入ることができる
	評価水準			到達目標 Can-doベース

【構成要素】に注目した「到達目標・評価水準」の記入例

「ふりかえる」力の育成・評価シート

(例)就活準備演習において【これまでの専門学校での学びや経験を経て何を得たかの総括を踏まえた自己分析】という課題を課した場合

	水準1	水準2	水準3	水準4
観点1: 経験の意味づけ・価値づけ	過去の行動を言語化できない、またはしようとしていない	過去の行動についてたどたどしいながらも語ることができる	過去の行動とその意図、感じたことなどを率直に言語化できる	些細な出来事からも気づきや教訓を引き出し言語化できる
観点2: 自分を深く理解している	「自分はこのような人間である」ということを表現できない	現在の自分に影響を及ぼした過去の経験や出来事について何かしら語ることができる	自分自身について強み・弱みや価値観、志向性など多様な角度から表現することができる(それぞれが点としてある状態)	過去の多様な経験がどのように現在の自分を形成しているか、相互に結び付けて語ることができる(一貫性のあるストーリーになっている状態)
観点3: 自分を肯定的に捉え表現できる	「自分はこのような人間である」ということを表現できない	自分について語ることはできるが否定的な要素が多い	自分について肯定的に表現できる	自分について、肯定的な感情が基盤にありながらも、肯定的な面・否定的な面をバランスよく客観的に認知し表現できる(ひとりよがりでない)

評価水準

到達目標
Can-doベース

ワーク3の意義

- 授業・行事で課した課題に関して、学生にどこの水準（ハードル）まで達成させるかどうか、教員間での目線合わせをすることができる。
- 「▲▲の部分はできているが、○○の部分はいない」など、学生の達成度をより細かく評価する方法を考えるにあたって役に立つ
- このワークシートを基に、実際の演習場面での評価シートを作ることができる。教員による評価、学生自身による自己評価にも活用できる

ワーク3補足

- ワーク2と同様、全てを完ぺきに書く必要はありません。
- 学科で決めた科目について、どの場面でどんな課題を課すのか、どんな視点で評価するのか、どのくらいの水準で評価するのかについて、**先生同士での共通点や違いを確認し、気づきを得ていただくことを今回は重視します。**

それでは、ワーク3に取り組んでください

作成した育成・評価シートの確認

確認ポイント①

「非認知能力を発揮状況を確認する場面・課題」と
「評価観点」の対応関係の確認

確認ポイント②

「非認知能力を発揮状況を確認する場面・課題」と
「評価水準」の対応関係の確認

確認ポイント③

どの水準を学科・コースとして「OK」ラインと
するかの認識のすり合わせ

まとめ： 教育活動の中で非認知能力を育む

どこで、どのように育むか？



コア活動・行事の明確化、評価シートの作成

- ✓ 非認知能力をどこで育成すべきかの目線が教員間で揃う
- ✓ どのような観点・水準で育成・評価の共通言語ができる
- ✓ ステークホルダーに育成している力をより多面的に伝えることができる

4時間目

学生個人の成長を
どう評価するか

4時間目の到達目標

1. 「学科で重視する力」以外の非認知能力に目を向けること
2. その非認知能力を通して、多様な学生の特徴や個性、成長を把握することができるようになること
3. その評価・フィードバックの方法を知ること

4時間目の構成

1. はじめにーここまでの復習
2. 「学科で重視する力」以外に目を向ける
 - ①多様な学生たちの特徴・個性の把握のため
 - ②多様な学生たちの成長の多面性の把握のため
3. ワーク1
4. 多様な学生を把握・評価するための方法
 - ①「個人シート」の活用
 - ②①を活用した「個人面談」の実施
5. ワーク2
6. おわりにー4時間目のまとめ

4時間目の構成

1. はじめにーここまでの復習
2. 「学科で重視する力」以外に目を向ける
 - ①多様な学生たちの特徴・個性の把握のため
 - ②多様な学生たちの成長の多面性の把握のため
3. ワーク1
4. 多様な学生を把握・評価するための方法
 - ①「個人シート」の活用
 - ②①を活用した「個人面談」の実施
5. ワーク2
6. おわりにー4時間目のまとめ

1. はじめにーここまでの復習

○ここまでの時間を通して学んできたこと

- ①専門学校教育における「非認知能力」という観点の重要性
- ②「学科で育てたい力」を抽出・分類
- ③抽出・分類した力の評価場面や評価方法

しかし・・・

「学科で育てたい力」を見るだけで、
学生の能力把握や評価は十分だといえるだろうか？

- ・例えば、学科で重視する力を
「コミュニケーション力」としたときに…

次のB君とA君の能力を、どのように
捉えればよいだろうか？

【A君の事例】



【A君】

- ・口数が少なく、職業人として必要な「コミュニケーション力」は弱い
- ・一方で身の回りの状況や変化に敏感



どうすれば、A君の個性や特徴を把握できるだろうか？

【B君の事例】



＜B君の事例＞

基礎学力が低いため、座学系の成績は高くない。しかし、教室ではいつも、最前列に座り真面目に授業を受け積極的に質問もするように。彼の成長を評価してあげたいが…。



どうすれば、B君の成長を評価してあげることができるだろうか？

4時間目の構成

1. はじめにーここまでの復習
2. 「学科で重視する力」以外に目を向ける
 - ①多様な学生たちの特徴・個性の把握のため
 - ②多様な学生たちの成長の多面性の把握のため
3. ワーク1
4. 多様な学生を把握・評価するための方法
 - ①「個人シート」の活用
 - ②①を活用した「個人面談」の実施
5. ワーク2
6. おわりにー4時間目のまとめ

2. 「学科で重視する力」以外に目を向ける

ポイントは大きく2つ！

①多様な学生たちの**特徴・個性の把握**のため

②多様な学生たちの**成長の多面性の把握**のため

①多様な学生たちの**特徴・個性の把握**のため

・同じ学科でも、学生たちの特徴や個性はさまざま



Cさん

- ・練習熱心で非常にカット技術が高い
- ・自己管理能力が高く、忍耐力もある
- ・観察力やコミュニケーション能力に課題あり



Dさん

- ・同世代へのコミュニケーション能力が高い
- ・新しいことへのチャレンジ精神と実行力がある
- ・自己管理能力に課題あり



Eさん

- ・カット技術に課題あり
- ・傾聴力、共感性が高くて真面目
- ・異世代へのコミュニケーション能力が高い

・個性や特徴を把握していないと・・・

※155～166枚目のスライドの例

A君は口数が…
「コミュニケーション
力」が
大事なのに…

B君は、「やる気」は
ありそうだけど…
学力が伸びないから
評価しづらい…



学生たちの「長所」や変化の機会を
捉え損ねてしまうかもしれない

- 「非認知能力」の観点から学生の特徴や個性を把握すると・・・

A君？
「コミュニケーション力」が
ないから、伸びるのは難
しいよね。



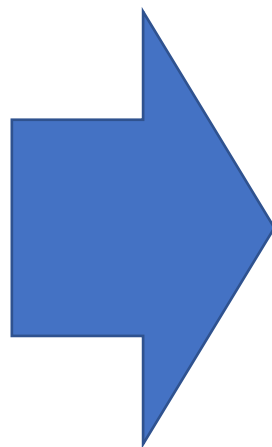
A君には、「**気づく力**」や
「**判断力**」という強みがあ
る。そこを評価してあげら
れないか？



多様な「非認知能力」に注目することで、
学生を評価する「ひきだし」が増える！

- 「非認知能力」の観点から学生の特徴や個性を把握すると・・・

A君は、「気づく力」や
「判断力」に
長けているよね。



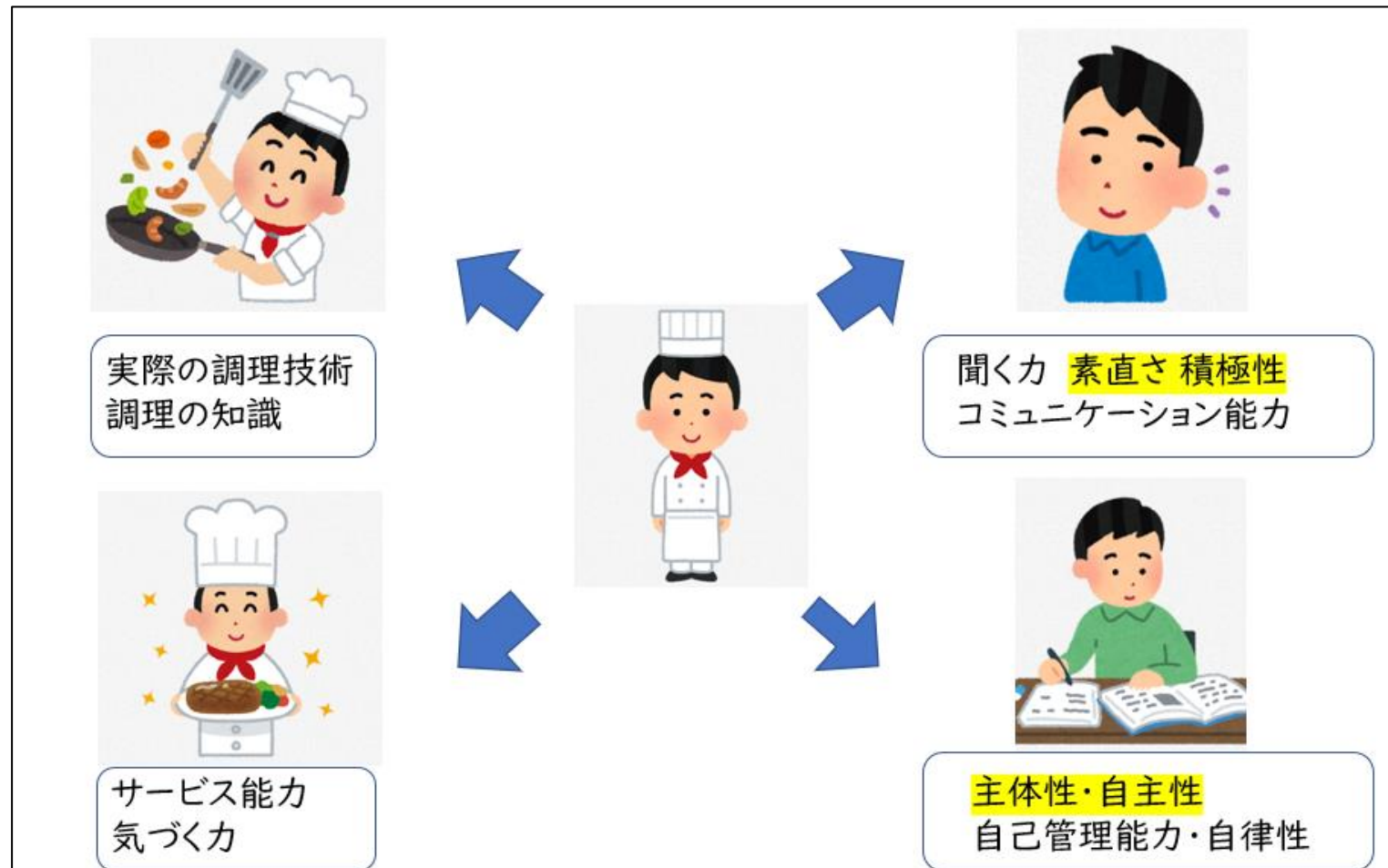
普段の授業や実習で、
もっと自分のつよみを
活かすぞ！



学習への動機づけにつながる！

②多様な学生たちの**成長の多面性の把握**のため

- ・教員が意図した面ばかりが成長するわけではない



※1時間目のスライドより

・成長の多面性を把握できていないと・・・

うちで伸ばしたいのは
「コミュニケーション力」と国家試
験合格のための学力・・・

B君は積極性ばかりで、
肝心なところがぜんぜん
伸びてくれない・・・

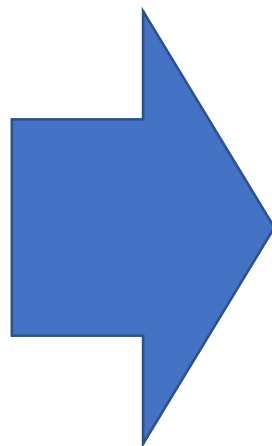


「評価」の観点が狭まり、
特徴・個性に応じた成長が見えなくなってしまう

・成長の多面性を把握すると・・・

B君は、入学してから積極的に授業に参加し、質問もしているよね。

先生は評価してくれている！
もっと積極的に参加するぞ！

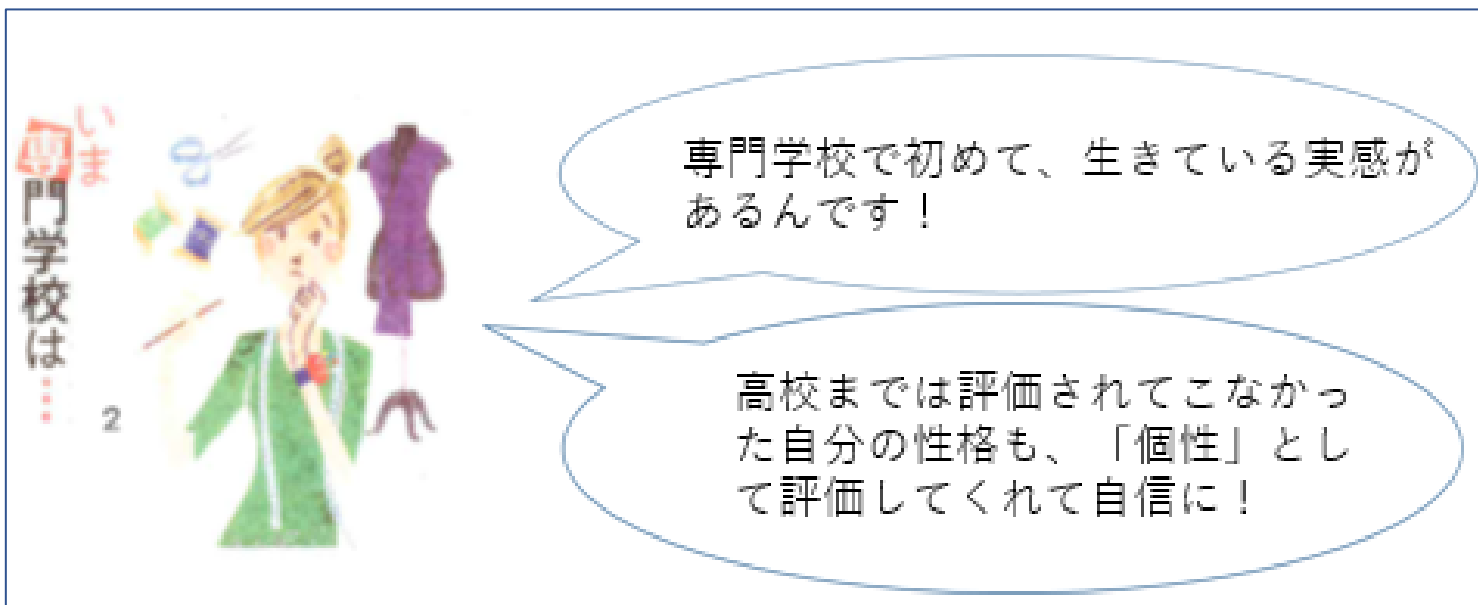


成長をみてくれる教員との関係の充実や、
さらなるモチベーションアップに！

ここまでのまとめ

- ① 多様な学生たちの**特徴・個性の把握**や
- ② 多様な学生たちの**成長の多面性の把握**は、

**職業教育を通して青年たちの成長を支える、
専門学校の役割でもあり、強みでもある！**



4時間目の構成

1. はじめにーここまでの復習
2. 「学科で重視する力」以外に目を向ける
 - ①多様な学生たちの特徴・個性の把握のため
 - ②多様な学生たちの成長の多面性の把握のため
3. ワーク1
4. 多様な学生を把握・評価するための方法
 - ①「個人シート」の活用
 - ②①を活用した「個人面談」の実施
5. ワーク2
6. おわりにー4時間目のまとめ

ワーク1

①日頃、学生の個性や特徴、その成長を、
どのように把握し、どのように
フィードバックしていますか？

②上記のことを、教員間でどのように共有
していますか？

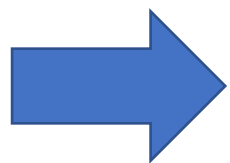
③①や②を行う際の苦労や工夫点は
ありますか？

ワーク1: 基本的な流れ

①学生の個性や特徴を、普段どのように把握し、フィードバックしているか？

②それを教員間で共有できているか？

③ ①や②を行う上での難しさや工夫はあるか？



ワークシートに記入後、グループ内で共有

4時間目の構成

1. はじめにーここまでの復習
2. 「学科で重視する力」以外に目を向ける
 - ①多様な学生たちの特徴・個性の把握のため
 - ②多様な学生たちの成長の多面性の把握のため
3. ワーク1
- 4. 多様な学生を把握・評価するための方法**
 - ①「個人シート」の活用
 - ②①を活用した「個人面談」の実施
5. ワーク2
6. おわりにー4時間目のまとめ

4. 多様な学生を把握・評価するための方法

・ここでは以下の2つを紹介

①「個人シート」の作成

②①を活用した「個人面談」の実施

➤ これらを活用して、「非認知能力」の
観点に注目した学生の個性・特徴や、
その成長を把握していく

①「個人シート」について

・「個人シート」とは？



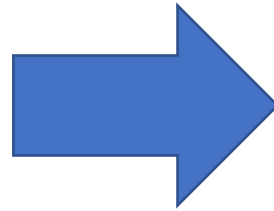
学生の個性や特徴把握を補助するためのもの。

自身の「強み」「弱み」
のほか、その時々
の学習状況や生活状況、
成長感などを自己評価
してもらう。

個人面談シート	
氏名 _____	
学籍番号 _____	
担任教員 _____	
学生記入欄	教員補足欄
1. 学習状況について <興味・関心が高まったこと、理解が深まったこと> 略 <理解が難しかったこと、学習が難しかったこと> 略 <来期の目標> 略 <その他、不安など> 略	
2. 生活面について <人間関係（学生同士、教員、その他）での不安はありますか？> クラスの子達と、積極的に関わることができませんでした。先生方とはお話することはできるのですが、自分から話しかけたりすることが苦手です。コミュニケーションに不安を持っています。 <その他の生活面での不安など、担任に知っておいてほしいこと> 人と話すことが重要な仕事を目指しているので、自分のコミュニケーション能力の低さが不安です。向いてないのでしょうか？	
3. 進路について <つきたい職業、企業など> 略 <現在の目標> 略 <現在の悩みなど> 略	

・「個人シート」を活用することで・・・

メリット①: 個性把握の負担減



学生が多すぎて、
一人一人の個性
なんてとても把握
できない・・・

- ・学生自身に記入してもらうから大きな負担ではない。
- ・教員自身も、学生一人一人への「気づき」が得られる！

・「個人シート」を活用することで・・・

メリット②：教員同士での情報共有



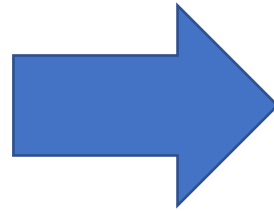
一人で何十人もの
学生の学習状況や
生活状況を把握しなけ
れば・・・



共通のフォーマットを
用いることで、学科全体で
学生の状況を把握し、
共有することが可能に！

・「個人シート」を活用することで・・・

メリット③：学生自身の成長感の記録



自分なりの「つよみ」はあるつもりだけど、普段の授業ではなかなか発揮できない・・・

教員がとらえきれない
「つよみ」を自己評価する
⇒学生自身の励みに！

「個人シート」の活用方法

① 定期的な活用

- 定期的な「個人面談」の実施
- 学生による記入とデータ収集のため

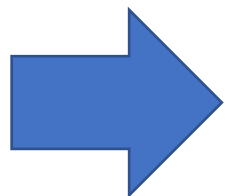
② 不定期での活用

- 「困難を抱える学生」への面談時に

②「個人面談」について

◆「個人面談」とは？

- 学生一人ひとりが、より充実した学校生活を過ごし、将来の目標を定めることができるように、学習状況や生活状況、現在の悩みなどについて、教員と学生が話し合う場。



個別적인対応が必要に



・一方で「個人面談」は教員の負担も大きい

いったい何から準備すれば？

一人あたり
たくさん時間は
とれない…



形式的に
おわりがち…

どう声かけ
したらいい？

◆「個人シート」を活用することで、
効果の高い「個人面談」の実施が可能に。

- ・「学習状況」や「生活状況」など、
注目すべきポイントごとに、
面談を行うことができる。

⇒効率的な面談の実施

- ・学生自身の「どこが成長したか」に目を
向けることで、励ましや学習の動機づ
けにつながる。

⇒一人ひとりに寄り添った
面談の実施



4時間目の構成

1. はじめにーここまでの復習
2. 「学科で重視する力」以外に目を向ける
 - ①多様な学生たちの特徴・個性の把握のため
 - ②多様な学生たちの成長の多面性の把握のため
3. ワーク1
4. 多様な学生を把握・評価するための方法
 - ①「個人シート」の活用
 - ②①を活用した「個人面談」の実施
5. ワーク2
6. おわりにー4時間目のまとめ

ワーク2

**ある学生の「個人シート」を例に、
面談の方法や日常的な声かけの
仕方を考える。**

ワーク2: 基本的な流れ

①ある学生（Fさん）の事例を紹介

【Point: 非認知能力の読み替え】

②①について気づいたことなどを共有

③ある学生（Gさん）の事例を紹介

【Point: 多様な非認知能力の把握】

④Bさんの「個人シート」をもとに、
「強み」の発見や声かけの方法を検討

ワーク2の目的

- 「非認知能力」の観点から、学生の個性や特徴を把握する方法を学ぶ。
- 「個人シート」をもとに、学生の「強み」や、個人面談での具体的な声かけの仕方を学ぶ。

ワーク2を教育実践の現場で どう活用できるか？

- 学生を個性や特徴を捉えていくための「視点」が得られることで、日常的にかかわっている学生たちの新たな一面が見えてくる。
- 「個人シート」の活用や、個人面談の手法に応用することができる。

美容師養成専門学校1年生 Fさんの事例

【普段の様子】

授業に真面目に参加しており、予習・復習もしっかりしている。教員との対話も問題ない。

クラスが華やかな子たちが多いなか、やや引け目を感じている印象。ただし、気の合うおとなしめの友人との関係は良好。

アルバイトは個人経営のレストランでホールを担当している。

【個人シートの内容】(詳細は別紙参照)

コミュニケーション能力について不安を抱いている。
クラスメイトとの関係性がその一因に。

そのために、後期のインターンシップや、美容師になること自体に不安を抱えている。



美容師養成専門学校1年生 Fさんの事例

【教員による「読み替え」】

①コミュニケーション力について

- ・同年代とのコミュニケーション能力は、
コミュニケーション能力の一部に過ぎない。
- ・対教師との日常・授業でのコミュニケーションや、バイト先での職業上のコミュニケーションがうまくいっていることに着目して、
コミュニケーション能力の積極的な読み替えを行い、Fさんを励ます方針へ。



②演習などで前に出ようとする積極性について

- ・積極的に授業参加しようとしている姿勢を評価。
- ・弱みを改善しようとしている姿勢を評価。

美容師養成専門学校1年生 Fさんの事例

【「個人シート」や面談での声かけ例 ①】



<2. 生活面について>

“不安を伝えてくれてありがとう。たしかに、クラスメイトとの交流は難しいですね。その点については、クラスづくりで私の方でもより注意していきます。”

“一方で、Fさんはコミュニケーション能力が低いとは思っていませんし、美容師に向いてないとは思っていません。その点はお伝えします。”

美容師養成専門学校1年生 Fさんの事例

【「個人シート」や面談での声かけ例 ②】



＜5. 今期における成長の把握について＞

“前期のあいだFさんを見てきて、私をはじめ先生方とのやり取りはとてもスムーズにできていますよね。それは、仕事をするうえでのコミュニケーションがしっかりできているということです。

バイト先でも、仕事を通したコミュニケーションはできているのではないですか。世代が違う人たちと、仕事における丁寧なコミュニケーションができるところは、Fさんの強みだと私は評価しています。

また、自分の弱みを改善しようと努力している姿も知っていますよ。その姿勢は「積極性」です。ぜひ今後もその姿勢を続けてくださいね。”

美容師養成専門学校1年生 Fさんの事例

【Fさんのその後】



面談を終えて、「コミュニケーション能力」のイメージが広がったというFさん。

自分が気づいていなかった強みや、姿勢を教員が言語化し、かつ評価していることを知り、自信を得ることができた。

ワーク2ー1

Fさんの事例や、それに対する教員の声かけの例を見て、気づいたことや考えたことを共有してみてください。

ホテル系専門学校1年生 Gさんの事例



【普段の様子】

授業はしっかり出席しており、課題提出なども問題なくできている。人より少し理解に時間がかかるころはあるが、理解できると問題なく行動できるようになる。

いつも仲良くしている友人は3人ほどいるが、それ以外の人たちとも、調和が取れるタイプで、普通にコミュニケーションは取れる。

やや引っ込み思案で慎重な性格であるため、行動が遅れがちなことがある。

【個人シートの内容】(詳細は次ページ参照)

オープンキャンパスでの出来事を引きずってしまっている様子。

ホテル系専門学校1年生 Gさんの事例



オープンキャンパスの際、自分が任された仕事をこなしていたときのこと。受付係のはずのCさんがたまたま離席していた。そんな時に高校生が受付へ。Gさんは、「受付係ではないけれど、私が動いた方がいいんだろうな」と思っている。しかし、「自分の行動が間違っていないか不安」に思い、結局その時は行動を起こすことができなかった。

大人しい性格ゆえに、状況の変化に気づいても、それを行動に移す力が弱いGさん

非認知能力の観点から、Gさんの「強み」を考えてみると？

ワーク2ー2

Gさんの普段の様子や「個人シート」を例に、「非認知能力」の観点から、Gさんの「強み」や、具体的な声かけの内容を考えてみましょう。

グループ発表 解説

【解説】ホテル系専門学校1年生 Gさんの事例



慎重な性格でもあり、オープンキャンパスでは自分の対応が正しいのか自身を持てず、行動に移せずにいた。

しかし一方で、ホテルマンに求められる「**気づく力**」「**観察力**」に**強み**をもつ学生。

「自分の役割でなくても、他の人が困っていたらチームとして動く必要がある」という考え方も身につけられている。

したがって、**座学で学んだことをしっかりと実践の場で活かす準備もできている。**

- ご自身の学科・コースの学生さんの場合についても考えてみてください。

4時間目の構成

1. はじめにーここまでの復習
2. 「学科で重視する力」以外に目を向ける
 - ①多様な学生たちの特徴・個性の把握のため
 - ②多様な学生たちの成長の多面性の把握のため
3. ワーク1
4. 多様な学生を把握・評価するための方法
 - ①「個人シート」の活用
 - ②①を活用した「個人面談」の実施
5. ワーク2
6. おわりにー4時間目のまとめ

○4時間目のポイント

学科で重視する力」以外の力を、
「非認知能力」の観点から捉えることで、
学生の個性・特徴や**多様な成長**に寄り添うことができるようになる！



その結果として...

- ✓ 「個人シート」や「個人面談」などを活用した、具体的な指導方法の充実
- ✓ 学生のモチベーションアップや学習への動機づけ
- ✓ 学生を評価する「ひきだし」が増えることで指導力が向上

学習評価研修プログラム開発ワーキング 委員名簿

植上	一希	福岡大学
佐藤	昭宏	ベネッセ教育総合研究所
小田	茜	久留米大学
丹田	桂太	九州大学
上里	政光	学校法人 KBC学園
高岡	信吾	学校法人 三友学園
岡村	慎一	学校法人 YIC学院
近藤	賢宏	学校法人 KBC学園
岩崎	千鶴	学校法人 三友学園
田澤	初美	学校法人 京都中央学院
水田	真理	学校法人 片柳学園